

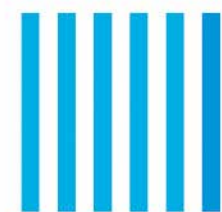
北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

[活動報告書 2021]

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙(レター)のように作成しました。
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
発行日：2022年3月
編集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様
制作：株式会社ゼブロス



421Lab.

北九州市立大学 地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4088
[E-mail] info421@kitakyu-u.ac.jp
[OPEN] 10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

Twitterで活動の最新情報を発信中 twitter.com/421lab_students

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

[活動報告書 2021]

ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は2010年4月の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生達を一貫して支援してきました。お陰様で活動も12年目を迎えております。単位も付与されない、報酬を得ることもないという状況の中で、学生達が主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。様々な地域の皆様方に支えられながら活動してきた学生達は、ここで蓄えた経験や知見を携えて社会に出ています。彼ら彼女らが、今、全国各地で活躍していることを想像するだけで熱い想いでいっぱいです。

今年度も新型コロナウイルスの影響により、421Lab.の活動も様々な制限を受けることになりました。感染状況が悪化したり、落ち着いたりを繰り返したことで、地域での活動もそのたびに計画変更を強いられました。逆にそのような環境に置かれたことで、学生達の対応能力は大きく向上したとも言えます。世界を取り巻く環境が大きく変わる中で、時代の変化に即した新たな課題にも臨機応変に対応する柔軟な力を421Lab.の活動を通じて学んで欲しいと願うばかりです。

来年度は北方キャンパスに所属する教員による新たなプロジェクトも立ち上がる予定で、活動の幅も大きく広がります。社会環境がどのように変化していくのか、まだまだ先行き不透明な部分もありますが、「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の骨格となる理念は変わりません。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

2022年3月
地域共生教育センター長
内田 晃

INDEX

- 4 421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
- 6 STEP1 事前研修
- 8 STEP2 実践活動
- 10 421Lab.学生運営スタッフ
- 12 KITAQ絆∞復興応援プロジェクト
- 13 防犯・防災プロジェクト (MATE's)
- 14 421lab.わくわくキッズプロジェクト
- 15 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 16 『食』から学ぼうプロジェクト
- 17 子ども食堂応援プロジェクト
- 18 421Lab.いぬねこプロジェクト
- 19 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 20 TFT×KitaQ univ.プロジェクト
- 21 国際交流プロジェクトFIVA
- 22 地域クリーンアッププロジェクト
- 23 まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 24 青空学プロジェクト
- 25 平和の駅運動プロジェクト
- 26 北九州市立大学BBS会
- 27 421Lab.英語で遊ぼうプロジェクト
- 28 421.lab+TAP SDGs Community
- 29 オープンキャンパスプロジェクト/JOB×Project
- 30 STEP3 2021 地域活動発表会
- 31 STEP4 振り返り研修
- 32 2021年度トピックス (1) 「環境ESD演習Ⅰ・Ⅱ」フィールドスタディ (長崎県対馬市)
- 34 2021年度トピックス (2) 福岡県立北筑高校×421Lab. 出張SDGs模擬授業
- 35 2021年度トピックス (3) ようこそ北九大へ ～広徳小学校・徳力小学校大学訪問2021～
- 36 短期型地域活動の紹介 私が活躍できる場所、を見つけました
- 37 先輩へのインタビュー
- 38 REGION×STUDENTS
- 40 421Lab. 概要
- 41 「地域活動のタイプ」について
- 42 短期型の地域活動
- 43 2021年度地域共生教育センター活動記録
- 44 パブリシティリスト
- 45 メディア
- 49 地域活動のお申し込みの流れ

北九州市立大学に地域共生教育センター(421Lab.)が誕生したのは
2010年の寅年のことでした。

干支もぐるっとまわって、ひとめぐり。12年とは早いものです。
継続すること、こつこつ積み重ねること。
きっとこれからも変わらない真理の1つだと思います。

コロナ禍1年目の2020年度。世界中がそうだったように、
人が出会ったり、集まったり、話したり、大きな制約があり、
421Lab.所属の地域活動プロジェクトも活動が落ち込みました。

コロナ禍2年目の2021年度。
それでもできることをしていこうと創意工夫を重ねながら
新しい試みをたくさんおこなってきました。
2020年度と比べると、活動の充実度もあがっていると感じています。

あるものを活かして、ないものをつくること。
いまできることを探すこと。
自分から周囲に働きかけてみることに、動き出すこと。

421Lab.から地域の皆様と共に歩んでいきたいという思いを込め、
2021年度も活動報告書を作成しました。

大変な時代だけれど、希望もたくさん芽生えていることを
感じていただけたら幸いです。



「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

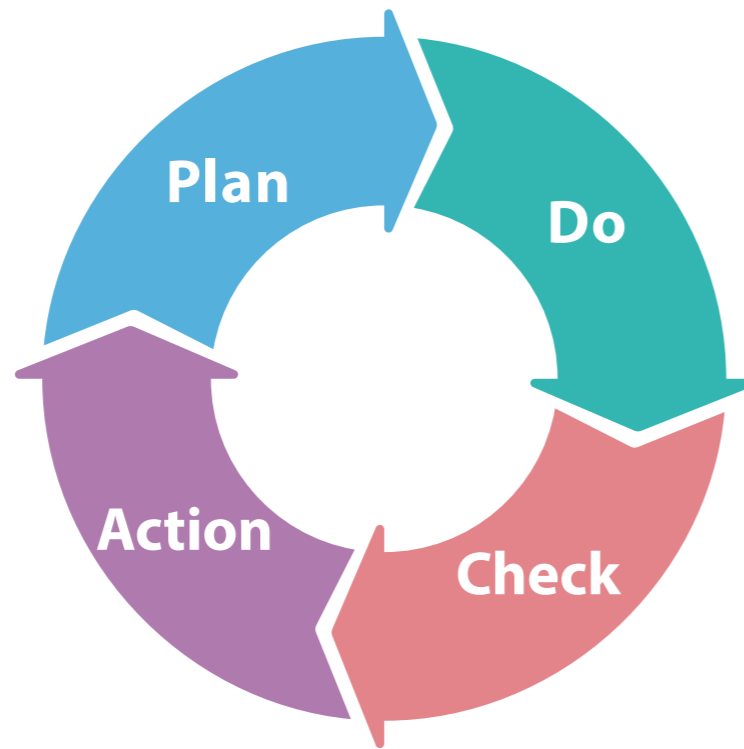
体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(分析)、Action(修正)の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。

どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。

しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。



STEP1 Plan

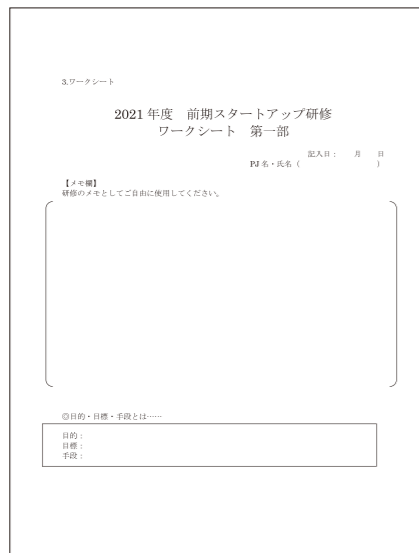
事前研修

事前研修は、地域活動をするにあたっての基本姿勢を確認し、身につけるための準備の場です。今年度は、「前期スタートアップ研修」「マナー講座」「プロジェクトリーダー研修」をYouTube配信で行いました。

前期スタートアップ研修

【期間】2021年6月21日（月）～7月2日（金）

新型コロナウイルス感染拡大のため、これまで対面で行ってきた学生プロジェクト向けの各研修プログラムをオンデマンド（YouTube配信）で開催しました。



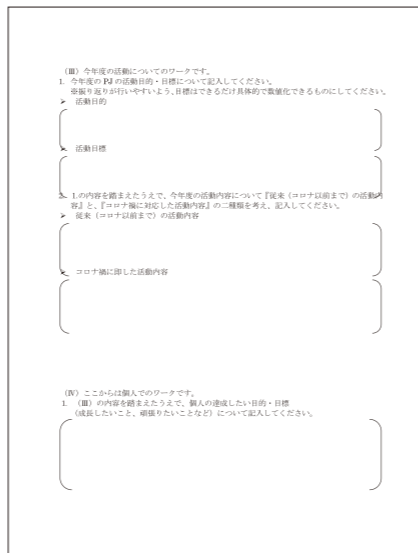
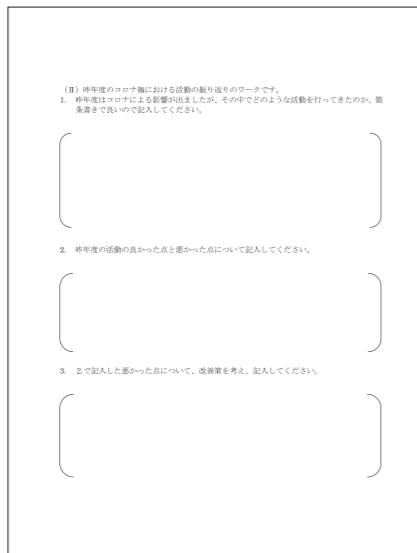
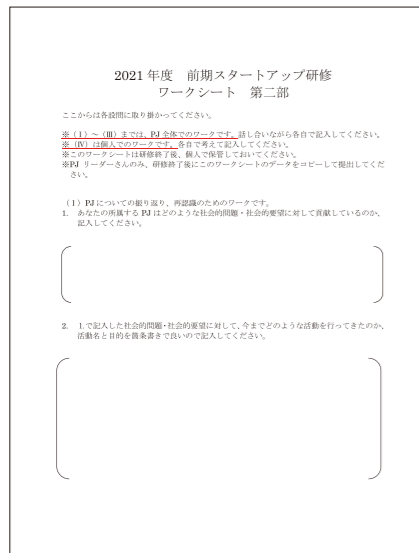
スケジュール

第一部

1. 目的と目標と手段の説明（5分）

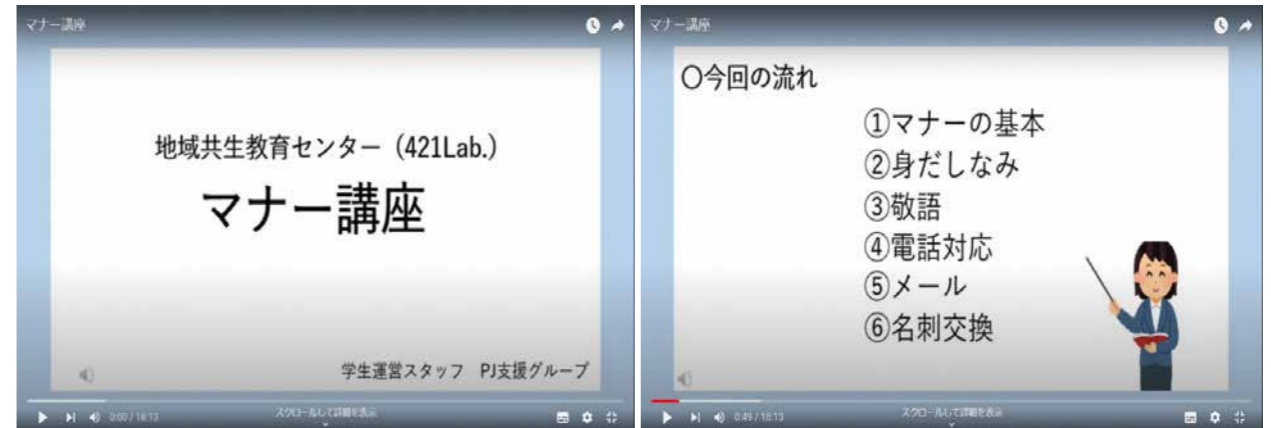
第二部

2. PJの振り返り・再認識（10分）
3. コロナ禍の活動の振り返り（15分）
4. PJの目的・目標（25分）
5. PJの活動スケジュール・活動内容（20分）
6. 個人の目的・目標（10分）



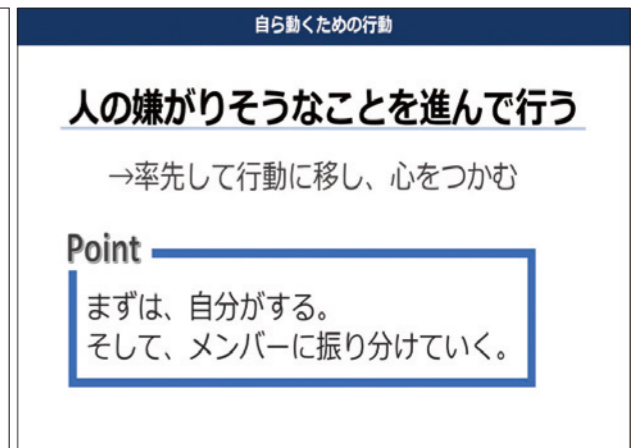
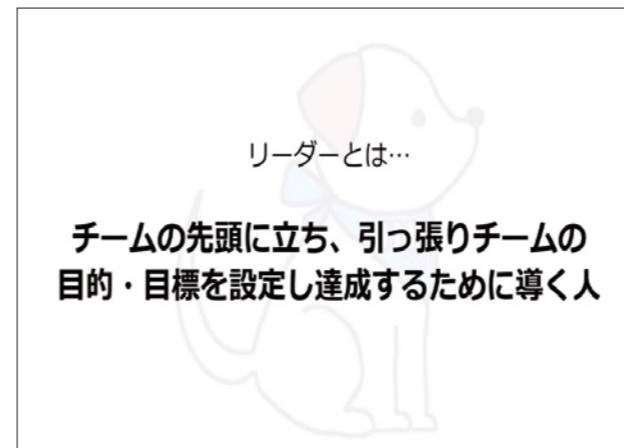
マナー講座

【日時】2021年8月11日（水）～8月16日（月）（Youtube配信）



プロジェクトリーダー研修

【日時】2021年7月15日（木）～7月20日（火）（Youtube配信）



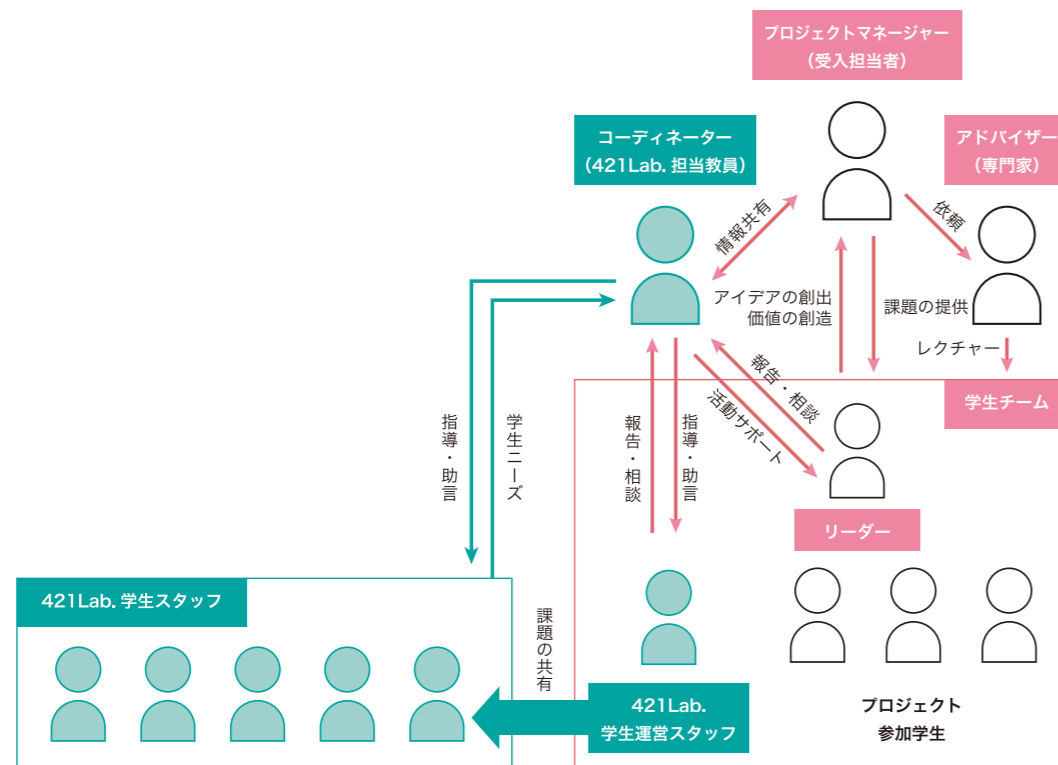
STEP2 Do

実践活動

実践活動では、周りの先輩方が何を見て、どう考え、どのように判断したのか。それを見聞きして知識として蓄え、経験を重ねていくことで、適切な判断へと近づいていきます。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値(経験や勘に基づく知識)をここで獲得します。

実践活動の組織体制

プロジェクト毎に関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。学生はリーダーを1人決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チームづくりのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



学びのためのきっかけを創り出す

センターが提供するプロジェクトはそもそも単位化されていません。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めて行く際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

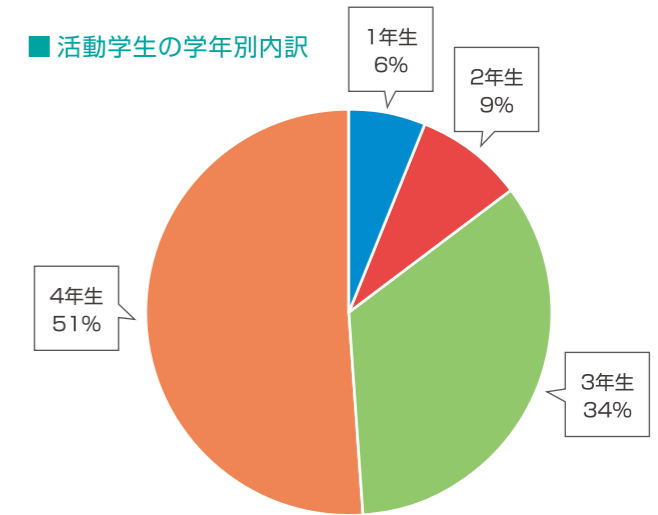
地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

地域共生教育センター 基礎データ

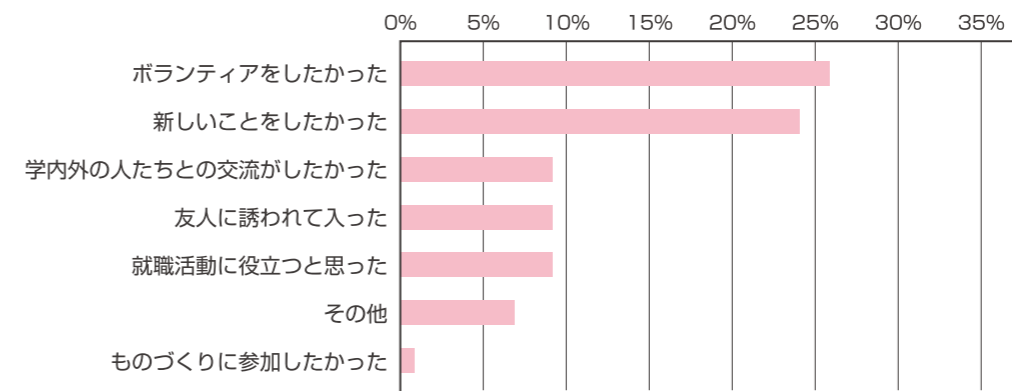
登録学生数

1,180名 (2022年2月現在)

活動学生の学年別内訳



参加動機



STEP2 PROJECT 1

421Lab. 学生運営スタッフ

地域と学生の架け橋

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 山波 郷華
- **プロジェクト人数**
31名
- **活動開始時期**
2010年4月～
- **活動頻度**
全体会：毎月1回（月末・水曜3限）
その他各班での活動：週1程度
- **連携・受入団体**
北九州市内の行政機関
民間組織・団体など
- **主な活動場所**
北九州市立大学 2号館1階
地域共生教育センター（421Lab.）
および市内各所
- **こんな人におすすめ！**
・企画の運営に興味がある人
・ボランティアに興味がある人
・様々な経験を積んでみたい人
- **今年度の活動実績**
・PJ向け各種研修の実施
・地元小学校との交流企画
・オープンキャンパス企画
・地元高齢者施設との交流
・各種421Lab.の広報物の作成



地域共生教育センター（通称：421Lab.）は、学生の力を必要とする地域と、地域活動を行いたい学生をつなぐ架け橋のような役割を担う教育機関です。学生運営スタッフは、北九州市立大学の全ての学部・学群に対して地域活動を通して貴重な学びを得てもらうために、「地域活動の魅力発信」と「活動しやすい環境を整える」という2つの目的のもと、どうすれば学生や地域のニーズに応えることができるかを考えながら、日々活動を行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

421Lab. 学生運営スタッフでの活動を通して、たくさんの人の交流や経験を積むことができました。また、一つの企画を通して自分の得意となる分野を伸ばしたり、新たなスキルアップにつながるようなことに挑戦できるため、とても濃い経験を積むことができました。

今年度の活動の内容と成果

今年度はコロナウイルスの影響が少しずつ収束してきたと同時に、活動や学生運営スタッフとしての役割の意味について考える年でした。2021年度前期は毎月1回の全体会を開催してきました。全体会といっても確認や共有の時間が主となるため、対面で全体会を行う必要性についての疑問が挙げられました。そのため、後期は421Lab. 学生運営スタッフとして活動している学生全体に対して意義のある全体会を開催しようと考え、プロジェクトについて学ぶ機会や、各々が行ってみたい活動に関して共有できるような場を設けました。他にも、全体での交流会や1,2年生で行う横断企画など、学生がよりよく活動できるような環境作りを行いました。また、上記のようなアプローチを行うため、執行部で毎週1回のミーティングを行い、学生の立場になって活動の意味について考えたり、学生のニーズに対してどのようにアプローチしたらよいかということを中心に考えるように行動しました。今年度は学生運営スタッフとして新たな成長につながる基盤を作れたのではないかと思います。

🔄 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は、学生運営スタッフの課題に着目して活動してきました。学生スタッフ全体の規律の緩さについて問題意識を持っている学生もおり、一度全体で学生運営スタッフとしての活動の意味を振り返る機会を設けることで、一段階ステップアップすることを目指しました。今後も、学生運営スタッフとしての士気を高めつつ、学生運営スタッフとしてよりよい活動ができるようなサポートを行っていきたくです。



大学・地域支援グループ

- **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 山越 悠聖
- **グループ人数**
8名

大学・地域支援グループでは、様々な地域活動を通して多世代交流を図ったり大学内外で行われるイベントを企画したりするなど、社会で必要とされるコミュニケーション力や企画運営能力などを学ぶことができます。また、学内のイベントでは学生を対象に421Lab.の活動紹介なども行っています。

● 大学訪問の感想

小学生を対象とした北九大への大学訪問は、大学生という身近なロールモデルに接することで小学生にとって将来の展望をイメージできる機会のひとつとなるようにするという目的で行いました。

大学紹介についてのプレゼンテーションでは、先輩方にアドバイスをいただきながら、小学生が理解しやすいように文字の大きさやレイアウトをよく考えたり、楽しんでもらえるようにクイズや問いかけを組み込みました。苦労した点は、小学生が注目してくれるように話し方や

問いかけを工夫することです。メンバーと何度も練習し、本番ではいちばんよいプレゼンテーションができました。この大学訪問を通して、伝えるということのスキルアップにつながったと考えます。聞き手に合わせた伝え方を学べるのは、幼児から高校生までと接する大学・地域支援グループならではの思いです。今後も様々な世代と関わりながら発信力を身につけ、相手のことを考えたイベントをしていきたいです。
(地域創生学群 1年 児嶋 悠菜)



Lab. 支援グループ

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 工藤 理愛
- **グループ人数**
13名

421Lab.の運営を支え、421Lab.の発展のために尽力するグループです。主に、広報物や研修、動画を通して421Lab.の活動発信・魅力発信を行っています。今年度は、新たにPV動画制作やガイドブック作成も行い、活動の幅を広げています。

● 421lab.PV 動画制作の感想

「421lab.ホームページ用PV動画」は、北九大生や高校生に、地域課題解決のために活動している学生プロジェクトと、それを支える421Lab. 学生運営スタッフに興味を持ってもらうこと、421Lab.の日常を切り取り、気軽に覗いてもらうことの2つを目的に制作しました。この目的に沿って、たくさんの人に見てもらうために動画を短いものにし、活動の雰囲気や伝わる写真や動画をより多く使用しました。また、気軽にもらえるように BGMのみでナレーションによる説明

を行わないなど、421Lab.の雰囲気や伝えるための工夫を行いました。完成した PV動画は421Lab.のホームページにて公開されています。反省点として、選曲しようとした音源の英詞の意味が適切かなどの確認が不十分だったことが挙げられます。今後は動画作成における確認事項をリスト化し、次の動画作成に活かしたいです。また、今回のような雰囲気を伝える短いPV動画を学生プロジェクトごとにつくっていきたくと思います。
(地域創生学群 2年 山下 陽菜)



プロジェクト支援グループ

- **リーダー**
経済学部 経済学科
2年 吉川 大貴
- **グループ人数**
10名

4プロジェクト支援グループでは、421Lab.所属の学生プロジェクトが活動しやすいようにサポートをしています。今年度はスタートアップ研修や振り返り研修などを行いました。学生がこの研修に参加することで、自分が地域活動を行う目的や目指すべき姿を確立することを目的としています。また、マナー講座のように、プロジェクト生に必要な知識や技術を指導・提供するのも私たちの活動の一つです。今年度は、前期はオンライン、後期は対面という形で研修や講座を実施しました。

● 後期スタートアップ研修の感想

後期スタートアップ研修は「PJが持つ問題」に主眼を置き、その問題を解決することで後期の活動をよりよいものにしていくという目的のもと行いました。事前アンケートでわかった悩みごとにPJを3グループに分け、研修では問題の解決に向けて、何を目標にしていけば良いのかを提示しました。企画後に行われたアンケートでは「自分たちが抱える問題について議論できましたか」という質問に対して、「議論できた」という回答を100%いただくことができました。時間内に解決までもっていったグループは少ないと思いますが、研修がPJ内の問題を見つめなおすきっかけにはなれたと思っています。

しかし、解決まで行えることが一番であったことは事実です。この研修では議論の促進のためにファシリテーターの役割を設けていたのですが、あまり慣れていないメンバーもいたのでうまく活用することができませんでした。ファシリテーターをうまく使い、解決策の例示や議論の軌道修正をすることができれば解決まで導けたPJも多かったかもしれないと反省しています。ファシリテーションはすぐにはできないものではないので、グループ内や個人での勉強やこれからの活動でこの経験を積むことを通して対応していきたくと思っています。
(文学部 1年 山際 紀子)



STEP2
PROJECT
2

KITAG 絆∞復興応援プロジェクト

北九州市から「食」を通して
被災地を元気に!

- **リーダー**
文学部 人間関係学科
3年 日吉田 みずき
- **プロジェクト人数**
15名
- **活動開始時期**
2011年4月~
- **活動頻度**
毎週金曜日
- **連携・受入団体**
お好み焼きいしん
一般社団法人Camp
- **主な活動場所**
北九州市
大学
朝倉市
- **こんな人におすすめ!**
・新しいことを始めるのが好きな人!
・食をすること、作るのが好きな人!
・被災地訪問や災害支援に興味がある人!
- **今年度の活動実績**
3月 第1回朝倉訪問
7月 第2回朝倉訪問
11月 第3回朝倉訪問
8月 絆焼うどん講習会
11月 松末焼きそば講習会
・北筑高校SDGs授業
・西京高校修学旅行生との交流
・読売新聞2022年元旦新聞掲載



私たちは主に2つの活動を行っています!一つ目は「絆焼うどん」です。地域のお祭りやイベントに参加して、岩手県釜石市産のイカと小倉発祥の焼うどんを掛け合わせた「絆焼うどん」を焼いて販売し、その一部を義援金として寄付しています。二つ目は「そばの商品開発や販売拡大」です。九州豪雨の被災地である朝倉市のそば(蕎麦)を使った商品を考えたり、北九州で販売できる場所を探しています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

朝倉市の被災地到着までの整備中の道を見たり、現地の方のお話を聞いたりして、自然の怖さを感じました。また、朝倉市松末地区に活気を取り戻したいという思いが印象的でした。人が温かく、おいしい食べ物に溢れていて、自然豊かで最高でした!

今年度の活動の内容と成果

今までは「絆焼うどん」の出店活動を主に行っていましたが、今年度からはプロジェクトの新しい軸となる活動をスタートさせました。九州豪雨の被災地である福岡県朝倉市の特産品である「松末そば商品」を使った地域活性化活動です。「食」を通して、被災地支援をしたり、自然災害や震災を身近に感じてもらう活動をしてきたPJだからこそできる活動だと考えています。そば商品を使ったパンや和食セット(そばの実おにぎりそば茶)、スノーボールクッキー、また「絆焼うどん」の活動を一緒に行っていたお好み焼き「いしん」の方々やアレンジした焼きそばなどを試作品として作ったので、今後はこれらを改善して商品化できたらと考えています。また、今年度は3回の朝倉訪問を行いました。現地でボランティアをされている方々と被災した畑で野菜を植えたり、育った野菜を収穫したりしました。また、焼きそばと、そばの実を使ったおにぎりを朝倉市内の久喜宮地域防災拠点施設のキッチンを借りて作り、被災者の方に振る舞い、交流を図りました。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

来年度は、被災地の方々との交流機会を増やすことによって、必要としている支援を汲み取って活動したいと考えています。現在、案として上がっている商品開発に関しては、試作品を作り、被災地の方々や協力して商品化していきたいです。また、他PJとの交流イベントなどを企画し、「絆焼うどん」や商品開発したものを作って食べていただく機会を作りたいと思います。学校の食堂メニューとしての提案も考えており、学生や北九州市の方々にも知っていただくことで災害の風化防止と防災意識の向上を強化させたいと思います。



STEP2
PROJECT
3

防犯・防災プロジェクト (MATE's)

防犯・防災意識向上の
“きっかけ”づくり

- **リーダー**
経済学部 経営情報学科
3年 吉崎 朱音
- **プロジェクト人数**
22名
- **活動開始時期**
2010年5月~
- **活動頻度**
月に6時間程度
- **連携・受入団体**
北九州市役所
小倉南警察署
NPO法人好きっチャ北九州など
- **主な活動場所**
北九州市の小学校
市民センターなど
- **こんな人におすすめ!**
・防犯や防災に興味関心がある人
・子どもと関わるのが好きな人
・コミュニケーション能力を高めたい人
- **今年度の活動実績**
・あそぼうさいへの参加
・ニセ電話詐欺注意喚起のキャンペーン参加
・「盗撮防犯ボランティアWc」様とのコラボ企画



「北九州を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」。そんな思いから、防犯・防災という視点で活動を行っています。メンバー一人ひとりが、他人事ではなく自分事として「まちの安全・安心」について考え、万が一の時、ベストな行動がとれるように防犯・防災の視点から地域に入り、コミュニティの活性化を図っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

学生だけではなく、子どもや地域の方々と交流することができるので楽しく活動することができます。また、犯罪や災害について活動を通じて学べたり、身近に潜む危険から身を守る意識を高められるため、とてもやりがいを感じます。

今年度の活動の内容と成果

今年度は2つ、新たな活動に挑戦しました。1つ目は、盗撮防犯ボランティアWc様との活動です。盗撮の被害を防ぐためにパトロールや注意喚起の活動を行っているWc様の活動に同行したり、法学部の先生をお招きした配信でのシンポジウムを企画したりといった内容です。この合同の活動は、今年度限りではなく、これから長く続けていく活動の1つにしようと考えており、企画のリーダーを1、2年生が務めました。この活動で、当プロジェクトの活動内容の拡充と、次の世代のメンバーたちの企画力やスケジュール管理能力などの向上に繋がったのではないかと考えています。2つ目は模擬避難所運営の体験活動です。体育館で実際に段ボールを用いたパーティションの製作や段ボールベッドの製作などを行いました。現3年生が中心となって企画・進行を行い、1年間の集大成になったと思います。この活動では、実際の避難所でのプライベート空間確保の難しさを実感しました。また、コロナ禍で対面活動が少なかった、メンバー同士の関係性を深める良い機会になったのではないかと考えています。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後の展望として2点挙げられます。1点目は「活動の充実を図ること」です。昨年と今年はコロナの影響もあり、思うように活動ができず活動数が少ない状況でした。来年度以降はコロナが少しずつ落ち着いていることを願いつつ、受け入れ先との活動を増やしながら学生の防犯・防災意識向上につなげていければと考えています。2点目は「地域密着型の防犯・防災活動を実施すること」です。まずは身近な地域において活動を実施し、地域との関係を築いていくことで、地域住民一人ひとりの「防犯・防災意識向上のきっかけづくり」の場を提供するとともに安全安心なまちを目指していければと考えています。



STEP2 PROJECT 4

421lab. わくわくキッズプロジェクト

「楽しく学べる遊び」を通じた特別な時間作りを!

- **リーダー**
経済学部 経営情報学科
2年 濱田 ももか
- **プロジェクト人数**
17名
- **活動開始時期**
2021年4月～
- **活動頻度**
毎週水曜日の3～5限に活動
月に一度、不定期でイベントの開催
(月によっては一度以上のこともある)
- **連携・受入団体**
大英産業
社会福祉協議会
- **主な活動場所**
本館2階 B-201
- **こんな人におすすめ!**
・子どもと接するのが好きな人
・工作が好き・得意な人
・色々な人と一緒に活動したい人
- **今年度の活動実績**
・大英産業と提携し、2つの幼稚園で出張大工を開催。また、小倉のセントシティ内でも出張大工のイベント開催
・社会福祉協議会と提携し、8つの市民センターでクリスマスイベントの開催
・桜丘小学校児童クラブで、クリスマス会の実施



共働きやひとり親家庭が増加傾向にあるなか、子どもたちが楽しめるレクリエーションを開催し、放課後の居場所づくりといった安心できるような時間をつくることを目的として活動しています。また、子どもたちに楽しく学べる遊びを通じて、特別な時間を過ごしてもらい、良い思い出になるようなイベントも、市内の企業や団体と連携しながら実施しています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

このプロジェクトでは子どもたちとただ関わるだけでなく、どうやったら楽しんでもらえるか、学びになるかを考え、遊びや当日の流れを立案、準備も行います。自分たちが考えたもので子どもたちが喜んでくれるととてもうれしくなります。

今年度の活動の内容と成果

今年度の主な活動は、大英産業(株)と提携し、建築の際に出てきてしまう端材を使ってイスや写真立てを作る出張大工を2つの幼稚園で開催、また8つの市民センターで社会福祉協議会が開催したクリスマスイベントへの参加そして、桜丘小学校児童クラブ内でのクリスマス会の開催といったことをしました。全てのイベントを合わせて約300人以上の子どもたちに特別な時間を届けることができました。また、イベントがない時はイベントに向けてメンバー全員でミーティングを行い、ゲーム内容や進行を決めていたり、飾り作りやカード作りといった工作をしたりと準備段階でも協力し合って活動を行いました。

今年度から、このプロジェクト自体が大幅に変わり、経験と知識の幅が広がりました。それと同時に今話題になっているSDGsにも触れる機会が多くなり、達成したいSDGsのゴールの数も多くなりました。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

コロナも少し落ち着いてきたので、ミーティングだけでなく、活動の頻度を増やしていきたいです。そのためにも、私たちの活動をもっとアピールして所属メンバーを増やすことに力を入れていきます。また、メンバー自身の質の向上を目指しています。コロナにより、現場で活動できた頻度が少なかった私たちは、子どもたちとのコミュニケーションの取り方や、イベントの進行など、技術的な面でも伸びしろがあると思います。勉強会や振り返りを丁寧に行い、子どもたちに更なる楽しさを届けられるプロジェクト活動を行っていきます。



STEP2 PROJECT 5

桜丘小学校学習支援プロジェクト

実際の教育現場で子どもたちの学習をサポート!

- **リーダー**
文学部 人間関係学科
2年 財津 梨花
- **プロジェクト人数**
5名
- **活動開始時期**
2017年4月～
- **活動頻度**
月に9時間～10時間
※学生の授業スケジュールに合わせて活動日の調整を行うため、都合の良い平日の曜日、時間帯に活動します。
- **連携・受入団体**
北九州市立桜丘小学校
北九州市立富野小学校
- **主な活動場所**
北九州市立桜丘小学校
- **こんな人におすすめ!**
・教員免許の取得を目指している人や将来教員になりたい人
・子どもが好き
・やりがいのある活動がしたい人
- **今年度の活動実績**
授業への参加を通じた学習支援活動



小倉北区の桜丘小学校や富野小学校にて、児童の学習支援を行っています。担任の先生と一緒に、通常行われている授業に参加し、「AT- (アシスタント・ティーチャー)」として、子どもたちをサポートする役割を担っています。その他の活動として、特別支援学級での生活支援や、小学生対象の「キャリア教育」として、将来の仕事や生活などに関する特別授業を行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

実際に教室に入って子どもたちと関われることは、教員志望である学生にとっても貴重な経験になると感じています。また、教職の授業で習ったことを実践できるので、知識の定着においても大いに役立っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は新型コロナウイルスの影響によって小学校を訪ねることができなかった時期もあり、例年と比べて子どもたちと接する機会が減ってしまいました。小学校で活動できなかった間は、このような環境の中でどんな学習支援活動を行うことができるのかといったことを活動メンバーで話すことが多かったです。また、後期からは小学校にて活動を再開し、しっかりと感染防止対策をしながら、授業への参加を中心に行いました。

今年度は前年度から続いて活動した学生メンバーが1人しかおらず、2021年から活動するメンバーがほとんどでした。コロナ禍ということもあり、最初のうちはミーティングの機会をなかなか設けることができず、活動内容や活動状況をうまく共有できていなかった部分もありました。しかし、それぞれがしっかりと目的、目標を持って活動することによって、子どもたちの学習支援を第一とした活動を行うことができ、充実した支援活動につながったと思います。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度の反省としては活動内容の共有ができていなかった点であると考えます。そのため、まずは学生メンバー同士の交流の機会を増やし、それぞれの情報の共有の場を設けたいと思います。情報の共有を通して、子どもたちにとってより良い支援活動について考え、子どもたちや先生方の支えとなれるように活動していきたいです。そして、今年度行うことができなかった活動についても、次年度以降は再開できるように頑張っていきたいです。



STEP2 PROJECT 6

『食』から学ぼうプロジェクト

楽しく食と健康の大切さを発信

- **リーダー**
文学部 人間関係学科
1年 馬場 明香里
- **プロジェクト人数**
11名
- **活動開始時期**
2016年4月～
- **活動頻度**
月に4時間程度、
毎週木曜日など
・月1回程度で企画やイベントを行います。
(調理実習、食育ボランティアなど)
・毎週1回昼休みにミーティングを行います。
- **連携・受入団体**
広徳小学校
足原ピッコロ子ども食堂
- **主な活動場所**
市民センター
各自宅のキッチン
421Lab.
- **こんな人におすすめ!**
・料理が好きな人
・子どもと触れ合うことが好きな人
・食べることが好きな人
- **今年度の活動実績**
・調理実習
・マイ弁当デー
・TFT×KitaQ Univ.プロジェクトとの
コラボ料理企画
・SNSでの啓発活動
・小学校への食育ポスター作り
・よみうりキッズフェスタ
・学生表彰受賞 (※2020年度末)



私たちは、地域社会とのつながりを大切に、食と健康について自発的に学習をし、学習成果は子どもたちや同世代の学生に伝えています。

主に子ども食堂における昼食献立作りと調理、子どもたちとの交流、地域の小学校における食・健康・環境学習支援、学内外における調理実習・食習慣改善教室に参加しています。その他にも飲酒疑似体験イベントの企画運営、お弁当作りの推進を行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

- ・料理ができなくても楽しく活動に参加できます。
- ・PJのみんなの仲が良い
- ・イベントの企画は大変でしたが、企画力が身につき、相手(子ども)の立場になって考えられるようになりました。

今年度の活動の内容と成果

【調理実習】守恒市民センターの調理室をお借りして調理実習を行いました。この調理実習は、あしはら子ども食堂における調理、食事提供(子ども食堂はコロナ禍により活動中止中)を想定し取り組みました。

【マイ弁当デー】月に1回お弁当をつくり、ランチミーティングを行い、SNS用の写真撮影や、メンバー間の交流を行います。

【TFT×KitaQ Univ.プロジェクトとのコラボ料理企画】学生を対象とし、「健康・コスパ・簡易的な調理工程」を意識した、食への関心を高める活動です。主にインスタグラムのリール(動画)機能を利用しました。

【SNSでの啓発活動】インスタグラムを利用し、料理、お弁当、食ロス、TFT企画などの内容を投稿します。今年度は、計12回の投稿をしました。『食』から学ぼうプロジェクトの知名度を上げることと、自炊と食ロス問題について学生に啓発を目的に取り組んでいます。

【小学校への食育ポスター作り】小学校の先生方と話し合い、子どもたちの教育進捗に合わせた「食・健康」に関する内容のポスターを作成します。

【よみうりキッズフェスタ】読売新聞社様が運営する「よみうりキッズフェスタ」へのボランティア参加し、食育の内容を担当、企画イベントのサポートを行いました。



STEP2 PROJECT 7

子ども食堂応援プロジェクト

子どもたちの孤食を防ぎ、第3の居場所づくりを

- **リーダー**
地域創生学部 地域創生学群 2年 工藤 理愛
経済学部 経済学科 2年 加藤 仁悠
- **プロジェクト人数**
65名
- **活動開始時期**
2016年9月～
- **活動頻度**
月に3～6時間程度(1回の参加が約3時間程度)、
2週間に1回程度(月1の食堂もある)
火、水、木、金曜日など(場所によって異なる)
《尾倉》第2・4週(水)17:00～
《日明》第2・4週(木)17:00～
《城野》第4週(水)17:00～
《小倉中央》第3週(金)17:00～
《大里南》第1・3週(水)17:00～
《足立》第1週(火)17:00～
- **連携・受入団体**
日明元気もりもりハウス、子どもふれあい食堂あんず
尾倉っ子ホーム、城野子ども食堂ハッピー
足立ウチヤマ子ども食堂、絆キッチン
北九州市立大学生協食堂
- **主な活動場所**
尾倉市民センター、日明市民センター
城野市民センター、小倉中央市民センター
大里南市民センター、足立市民センター
- **こんな人におすすめ!**
・子どもが大好き!
・何か新しいことを始めたいと思っている人
・コミュニケーション力、企画力など
様々な学びを得て成長したい人
- **今年度の活動実績**
・活動に関する高校生への授業
・SNSにおける広報
・子ども食堂での活動



子ども食堂応援プロジェクトは、北九州市内の子ども食堂の活動を応援し、孤食を防ぎ、子どもたちが安心して過ごすことができる第3の居場所づくりを目的として立ち上げたプロジェクトです。現在は、市内の6つの子ども食堂と連携して活動を行っています。活動する中でイベントの企画や運営をしたり、子どもたちと遊んだり普段の大学生活ではできない経験を得ることができます。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

- ・子どもたちが笑顔で遊びに誘ってくれるので、嬉しいです。また、自分の行動次第で活動内容を充実させられ、達成感を感じることができました。色々な立場の人と関わり、様々な役割を経験することで自分の考えや視野も広がりました。

今年度の活動の内容と成果

2020年度に引き続き今年度もコロナ禍での活動となり、緊急事態宣言下においては活動の自粛を余儀なくされました。そのような情勢の中でも子どもたちの居場所作りのためになんとか限られた交流の場を充実させようと学生一同、入念に計画、準備を行い、また新しいことにも挑戦した一年でした。ミーティングを重ね、遊びを考案したり飾りを作ったりしました。

新しい挑戦の最たる例が日明市民センターでの「駐車場に絵を描こう!」です。講師として福岡市、北九州市在住の画家3名をお招きし、駐車場一面をキャンパスにしました。子供たちはもちろん、保護者の方からも「楽しかった」との言葉を頂けました。

また、広報活動にも力を入れました。学外からインタビューを受けたり、SNSも工夫して運用したりしました。加えて高校生への授業などを通して、学内、学外ともに子ども食堂の活動の認知度を高めることができました。新しく子ども食堂に参加する子も増え、活動の意義を実感できました。たくさんの方の協力の元、子どもたちの笑顔を作ることに貢献できたのではないかと思います。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

コロナ禍による影響で今年度の活動は制限されたものになってしまいました。2022年度も感染対策を講じながら、子どもたちに楽しんでもらえるよう工夫していきたいです。また、この子ども食堂の認知度を上げ、一人でも多くの子どもを支援できればと思います。

421Lab.のほかのプロジェクトとコラボしたり、他大学と協力したりし、新しいイベントの実施など、より幅広い活動を行っていききたいと思います。



STEP2
PROJECT
8

421Lab. いぬねこプロジェクト

ワンちゃん、ネコちゃんは
我らが守る

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 山波 郷華
- **プロジェクト人数**
19名
- **活動開始時期**
2015年11月～
- **活動頻度**
定例ミーティング(コアメンバーのみ)
…毎週水曜日3限
ドッグカフェ「KATANODA」での
お散歩ボランティア(全員参加)
…土日・祝日を除いた毎日の定例活動
(希望を提出するソフト制)
勉強会(全員参加)…半年に2回
愛護センター・鞍手への訪問…不定期
- **連携・受入団体**
NPO法人ドッグセラピージャパン
北九州市 動物愛護センター
- **主な活動場所**
ドッグカフェ「KATANODA」
北九州市動物愛護センター
- **こんな人におすすめ!**
・動物が好きな人
・福祉や動物関係に興味がある人
- **今年度の活動実績**
・セラピードッグのお世話
・動物愛護センターとの共同企画



私たちの活動の社会的背景には、犬猫の殺処分問題の解決に向けて、NPO法人や北九州市役所の方々が様々な取り組みを行っているにも関わらず、殺処分される犬猫が存在しているという現状があります。この現状に私たちは「学生としてできるアプローチ」ということに重きを置き、受け入れ先の方々と一緒に犬猫を取り巻く問題に関して考え、学び、発信するという活動を行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

実際に愛護センターに訪問することで、想像していた以上に犬猫を取り巻く問題が深刻であることを学びました。また、受け入れ先の方にお散歩やしつけ訓練について教えていただくなど、密接な関係で活動をする中で、飼い主としての責任などを学ぶことができ、犬猫との共生について考えるきっかけとなりました。

今年度の活動の内容と成果

今年度は新しく「421Lab. いぬねこプロジェクト」として名称を変え、プロジェクトとして様々なことにチャレンジした年でした。新しく受け入れ先として一緒に活動することになった、北九州市動物愛護センター様との活動をはじめ、受け入れ先の方々と連携した活動を中心に行ってきました。中でも、NPO法人ドッグセラピージャパン様との定例活動として行っていた、「お散歩ボランティア」では、今年度所属することになった多くのプロジェクトメンバーのモチベーションや学びに繋がる、私たちの活動にとって大きな活動となりました。他にも、新しい活動拠点となるドッグセラピージャパン様の2号店や、愛護センターへの訪問など様々な活動と一緒に行いました。また、7月には北筑高等学校にて高校生と、さらに10月には京都の西京高校の高校生と交流をすることができました。さらに、「ふくおか地域づくり活動賞」に応募し、自分たちの活動を振り返る機会もありました。



STEP2
PROJECT
9

「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト

日常に文学を!

- **リーダー**
文学部 比較文化学科
3年 大熊 日菜子
- **プロジェクト人数**
11名
- **活動開始時期**
2015年11月～
- **活動頻度**
月に1時間程度、
毎週木曜日など
- **連携・受入団体**
北九州市役所
北九州文学サロン 等
- **主な活動場所**
大学内
北九州文学サロン
小倉京町銀天街
- **こんな人におすすめ!**
・北九州市での地域に根ざした
活動に興味がある人
・文学作品や小説、映画などが
好きな人
・北九州や文学についてこれから
学んでみたい人
- **今年度の活動実績**
・おすすめの本紹介
・ブックカバーの作成
(北九州文学サロン公募)
・「とほほん市」への参加



私たちプロジェクトは、「北九州に『文学』という新しいブランドを作ろう」というコンセプトのもと、北九州を盛り上げるために活動をしています。実は、北九州にゆかりのある文学作品はたくさんあります。それらの魅力や北九州の特色を伝えられるように、市役所や北九州文学サロンの皆様と協力しながら、地域に根ざした活動を日々、行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

実は、このプロジェクトに入るまで、私は北九州の文学について詳しくありませんでした。しかし、このプロジェクトの活動を通して、北九州の文学や歴史などを学ぶことができました。そこがこのプロジェクトの魅力だと思います。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、昨年度に比べて、より地域の方々と交流できた一年だったように感じます。

まず、おすすめの本紹介では、SNSを通して、北九州に関連ある文学作品を紹介しました。作品の魅力や大学生ならではの感想や、メンバー自作のイラストを使って発信することができました。また、小倉京町銀天街にある「北九州文学サロン」の主催するイベントに参加する中で、北九州市の皆様と共に活動を行うことができました。例えば、北九州市のクリエイターの方々が制作されたブックカバーを文学サロンより配布したイベントでは、私たちプロジェクトもブックカバーデザインに関わらせていただきました。このように作品作りによって、地域を盛り上げる活動を支援する一方、「とほほん市」という古本市に参加した際には、地域の皆様と直接交流することができました。古本を販売しながら、販売スペースに来てくださった方と活動についてお話ししたり、販売した作品について語り合ったり、古本をきっかけに地域を盛り上げることができたのではないかと思います。

受け入れ先の皆様のご支援のもと、充実し、地域に根ざした活動ができた一年だったと感じております。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

今年度は、感染症対策をしながらどのように活動をするかという議題について、よく話し合った一年でした。この話し合いを生かして、来年度はおすすめの本を紹介するなどの展示型の企画を実行したいと考えています。また、対策をしたうえで、地域の皆様と交流のできる古本市への参加なども、引き続き継続したいと考えています。



STEP2 PROJECT 10

TFT×KitaQ univ. プロジェクト

ランチから始める国際貢献!

- **リーダー**
文学部 比較文化学科
2年 大井 梨々華
- **プロジェクト人数**
12名
- **活動開始時期**
2014年4月～
- **活動頻度**
月に4時間程度、毎週金曜日など
月に4時間程度、毎週金曜日の昼休みに
ミーティングをしています。また、企画を
予定している時は、ミーティング外の
活動も行います。
- **連携・受入団体**
北九州市立大学生協同組合
- **主な活動場所**
北九州市立大学 北方キャンパス
北方食堂
- **こんな人におすすめ!**
・美味しい学食を食べる気軽に
国際貢献をしたい人
・身近な「食」を通して、国際的な
飢餓問題について考えたい人
・ポスター作成やSNSを通して、
国際問題やTFT (TABLE FOR TWO)
活動に関する広報活動してみたい人
- **今年度の活動実績**
・調理実習
・学食でのTFTフェアの開催
・おにぎりアクション
・JICA九州訪問
・青年海外協力隊の中野由美さん
(北九大OG)による講話



世界では、成人の8人に1人が肥満と言われ、深刻化しているのに対して、今日では新型コロナウイルス感染症の影響により、飢餓が劇的に悪化し、世界人口の約10分の1、最大で8億1100万人が栄養不足に陥ったと推定されています。その中には栄養失調によって十分に発育できない子どもたちが大勢います。私たちはこのような世界の不均衡を是正するために、学食でTFT (TABLE FOR TWO) メニューを販売し、一食につき売上の20円を発展途上国の子どもの1食分の寄付金として届ける活動を主軸として行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

私たちは、一人ひとりが主体となって、和気あいあいと楽しく活動を行っています。SNSによる宣伝やポスター作りといった広報活動を学生向けに行い、学食でTFTメニューを食べしてくれる学生が増えると、その分、遠く離れた発展途上国の子どもたちに食糧支援を行うことができ、やりがいを感じることができます。

今年度の活動の内容と成果

今年度もコロナウイルスによって活動を制限される部分が多々ありましたが、昨年と異なる点として、TFTフェアの開催、青年海外協力隊OBの講演会、調理実習やJICA訪問を行うことができました。TFTフェアは季節毎に開催し、食堂の利用者数がコロナ前と比べて40%減少していましたが、1981食、39,620円を達成することができました。青年海外協力隊OBの中野由美さんの講話では、実際に現地のお話を聞き、これからの自分たちのキャリアを考える良い機会となりました。次に、調理実習では、「TFT」「フェアトレード」をテーマとし、支援先の給食で食べられているポシヨや豆のトマト煮、チュニジア料理であるタジン、エチオピア料理のクックル、フェアトレード商品のコーヒーを使用したコーヒーゼリーを作り、支援先の理解を深めることができました。JICA訪問では、様々な国の食文化に触れることができ、展示や図書館を通じて楽しみながら各国について学びを深めました。このように今年度は対面での活動によってメンバー内の知識や経験を増やすことができ、それを2021年に力を入れてきたSNS活動によってTFTメンバー以外の学生や、学外の方にも私たちの活動を広めることができましたと思います。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

次年度は、先生方に講義をしていただくなど、勉強会を通してメンバーの知識を増やし、今年度おこなったSNSによるおにぎりアクションやJICA訪問、調理実習の定期開催など、学外での活動にも力を入れていきたいです。また、421ラボの他のプロジェクトともコラボして、子ども食堂などでTFTに関する模擬授業をさせてもらいたいと考えています。今年度はコロナウイルスに縛られてできなかった活動も多くあるので、次年度は企画の幅を広げて、活動していきたいと思っています。



STEP2 PROJECT 11

国際交流プロジェクト FIVA

国際交流による地域貢献

- **リーダー**
外国語学部 国際関係学科
2年 奥田 凛太郎
- **プロジェクト人数**
43名
- **活動開始時期**
2016年～
- **活動頻度**
月に5～6時間程度、
毎週金曜日
(月に一度、土日のいずれかに
イベントあり) など
- **連携・受入団体**
北九州YMCA日本語学院
北九州国際技術協力協会
- **主な活動場所**
北九州YMCA日本語学院
北九州市内及び近隣地域
- **こんな人におすすめ!**
・留学生と話をしてみたい人
・イベントの企画や運営を
してみたい人
- **今年度の活動実績**
・YMCAの留学生と月に約一度の
ベースで交流会
・ダンスワークショップ参加
・世界体操ボランティア
・ESDプロモート実習の皆さんと
コラボイベント



私たちは、北九州YMCA日本語学院の留学生と日本語で、北九州国際技術協力協会 (KITA) の外国人技術研修員さんと月に1回程度英語で交流し、地域とつながり合う国際交流活動の企画・運営を行っています。同じ北九州で暮らしながらも、接する機会の少ない日本の大学生・地域住民・外国人をつなげ、国際交流を通じて北九州を始め、日本の魅力を発信しながら、多文化共生社会の実現に向けた課題改善に取り組んでいます。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

このFIVAで活動することで今まで出会うことのなかった外国人の方と話す機会があり、いろいろな気づきがあります。日本語は難しいといわれますが、その日本語をべらべらと話す留学生を見てすごいなと思うし、コミュニケーションが取れることがうれしいなと思います。また、彼らの母国についての話を聞くことも面白いです。

今年度の活動の内容と成果

今年度はFIVAでの経験が浅いメンバーでの運営の引継ぎとなり、多くの反省点もありましたが、新しい試みにも多く挑戦し積極的に活動を行うことができました。まずは今まで通り、提携先のYMCAの留学生の皆さんと月に一度ほどの交流イベントをしました。なるべく、コミュニケーションをとれるように、互いに楽しめるように、日本文化や北九州市の魅力に触れられるような会になるように企画してきました。満足度は毎回高く、リピートしてくれる留学生も多いです。新しい試みとしては人数が多い中、円滑に進められるように役割毎にチーム編成をし、なるべく全員が何かしらに関わることでできる仕組みづくりを目指してやってきました。中でもYMCAの学生や担当の方との直接のパイプ役を担う「留学生支援チーム」は独自の発想で留学生と月一のイベントだけではなくズームでオンラインで交流する仕組みを新しく考えてくれました。

🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度当初は慣れない運営の中、メンバー同士の情報共有や月1定例交流の内容検討、企画の段取り・準備等に課題もありましたが、運営陣を中心に積極的にコミュニケーションをとり、ミーティングを通じてメンバー一人ひとりの意見を大切にしながら課題の共有と解決を図ってきました。北九州に住む留学生と地域をつなぐ橋渡し役として何が求められているかを留学生目線に立って考え、実践していくために、今後もメンバーや受け入れ先の方々と学び合い、しっかりと目的意識を持って一つ一つの交流イベントを企画していきたいと思っています。



STEP2
PROJECT
12

地域クリーンアッププロジェクト

楽しさとつながりを大切に、
at homeな存在へ、人の想いを形にする

- **リーダー**
法学部 政策科学科
3年 伊礼門 叶
- **プロジェクト人数**
29名
- **活動開始時期**
2015年4月～
- **活動頻度**
第2、第4 水曜日、金曜日の
17:30から約1時間ゴミ拾い活動
- **連携・受入団体**
グリーンバード
- **主な活動場所**
北方市民センター
- **こんな人におすすめ!**
・他学部学科や社会人、中高生など
様々な人と関わりを持ちたい人
・活動理念に少しでも共感してくれた方
・自分の中でやりたい事があるが、
表現することが苦手な方
- **今年度の活動実績**
・モノコラボ清掃 (モノレール)
・クリスマス仮装清掃
・定例清掃活動で参加人数30名達成



クリーンアップPJでは、楽しさと繋がりを大切に、また参加したくなるような空間を、また人の思いに寄り添い、どんな思いでも皆で受け入れ、形にしていきたいと思っています!!

主な活動はゴミ拾い清掃ですが、これまで地域の人たちと一緒にサンタ仮装清掃をしたり、花見清掃なども行ってきました!ゴミ拾いに限らず、抱いてる思いに本当に向き合い、実現したいと思っています!

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

月に4回なので、ちょうどいい活動頻度で、ゴミ拾いをする中で色々な人とお話することができるので、とても楽しく活動しています。活動は全て必ず参加ではなく、予定が空いている日に参加できるのもいいです。

今年度の活動の内容と成果

今年度の活動としては、コロナ禍でただ定例清掃を行うだけのPJとなっていたのですが、メンバーで1ヶ月時間をかけ、クリーンアップPJで大切にしたい想いや考えを作り、皆がその理念に沿って活動していこうと意識づけられるようになりました。理念にもある楽しさと繋がりを大切に、それを形にしたのがクリスマス仮装清掃です。クリーンアップPJメンバーだけではなく、参加者も仮装して、32名のサンタ仮装で北九大周辺をゴミ拾いました!楽しさと繋がりを意識していたからこそ、ただ仮装するだけではなく、ライトをたくさん使ってキラキラさせようという案や「写ルンです」を使って、エモ写真を撮っていこうという案が出て実際に取り入れました。今年度中の実施はできませんでしたが、他の421所属のPJとのコラボも検討しており、他プロジェクトが抱える悩みや想いをクリーンアップが少しでも力になればと思っています。



🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

クリーンアップPJでは「楽しさと繋がりを大切に、at homeな存在で、人の想いを形にする」を理念においています。2022年もその理念に沿った活動をメンバーの皆と一緒に作っていこうと思っています。学年・学科問わず理念に共感していただける方は大歓迎です。

2022年は本格的に他PJさんと関わり、楽しくコラボができればと思っています。

STEP2
PROJECT
13

まち美化魅力向上プロジェクト Clear

「Clear」な活動でまちの魅力UP

- **リーダー**
法学部 政策科学科
2年 松山 陸聖
- **プロジェクト人数**
9名
- **活動開始時期**
2020年4月～
(※前身のPJは2017年より活動)
- **活動頻度**
月に8時間程度、
毎週水曜日など
- **連携・受入団体**
株式会社ミクニ
- **主な活動場所**
三萩野バス停
2号館1階421.lab
- **こんな人におすすめ!**
・いろいろな方法で北九州市を
盛り上げたい人
・地域の課題解決に興味のある人
・実際に企業さんと協力して
企画から実行までをしてみたい人
- **今年度の活動実績**
・毎週定例清掃
・毎週水曜日に定例ミーティング
・活動後のSNS投稿 (Twitter, Instagram)
・株式会社ミクニ様への
北九州市に関するアンケート実施
・月一活動 (大規模清掃、ミクチャリを
利用しながらの清掃、勉強会、
北九州市すごろく)
・株式会社ミクニ様との合同清掃
・ビブス作成 (企画進行中)



北九州の魅力を清掃や地域との活動を通して向上させることを目的としたプロジェクトです。このプロジェクトの特徴は、地元の企業である不動産会社株式会社ミクニ様と協力して活動しているところです。今年度は対面ミーティングもできるようになり三萩野バス停などで共同清掃やビブス作成などを共同で行いました。プロジェクトが始まり2年の新しいプロジェクトなので、様々な企画に手探りながら挑戦しています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

このプロジェクトで活動して良かったことは、企業や地域、他のプロジェクトなど様々な人と関わることができたことです。特に企業とは普段の学生生活では深く関われないので貴重な体験となりました。また、学部・学年関係なく仲がいいので活動しやすいところも特徴だと思います。

今年度の活動の内容と成果

今年度の前期は、校外に赴いての活動が行いづらい環境にありました。しかし、中でも毎週の定例ミーティングは欠かさずに行い、メンバー全員で新たな活動の幅を模索してきました。前期では受入団体である不動産会社ミクニ様の社員の方々に北九州市についてのアンケートを行わせていただき、その結果を基に今後の活動を考えました。また、緊急事態宣言発令解除後は三萩野バス停にて毎週の定例清掃を行いました。清掃を通して、地域の方にも度々お声がけをいただけるようになり、先日近隣の住民の方にお声がけをいただいて「いつもありがとう」と感謝をしていただいた際には、私達の活動が認められた気がしてとても嬉しかったです。また、後期ではミクニ様との連絡を密接に交わして、合同清掃実施やビブス作成を行っています。月一活動では、大規模清掃や就職に関する勉強会の実施、先輩方がゼミで作成した北九州市のすごろくをメンバーで体験して、北九州市の魅力を再発見しました。



🗣️ 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は活動範囲が清掃以外のことをあまり行うことができなかったので、次年度以降は清掃の枠を超えた新たな北九州市の魅力を発信できる活動内容を考えて実践していきたいと考えています。その中で、地域の方との関わりを深めていきたいと考えています。また、メンバー間での信頼をさらに深め、積極的に楽しく活動を行える環境づくりを目指していきたいです。

STEP2
PROJECT
14

青空学プロジェクト

「環境」から考える
北九州市の今と未来

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
3年 藤本 初音
- **プロジェクト人数**
8名
- **活動開始時期**
2016年～
- **活動頻度**
月2～4回、1コマ程度の定例会
※その他必要に応じて活動
- **連携・受入団体**
NPO法人里山を考える会
- **主な活動場所**
北九州市立大学
北九州市環境ミュージアム
- **こんな人におすすめ!**
・環境問題に興味がある
・オリジナルティある活動がしてみたい
・地域に出て活動したい
- **今年度の活動実績**
・環境分野探究 PJ内発表会
・藍島での海洋漂着ゴミ観察・清掃活動
・環境ミュージアム見学
・曾根干潟での生態系・ゴミ観察
・「激エコさんを連れてきた」(J:COMチャンネル) 出演
・エコライフステージ2021
20周年記念フォーラム 出演



私たちは北九州市の環境問題に対し、学生の私たちができるアプローチを考え、実践することで解決への糸口を探る活動を行っています。今年度は「ゴミ問題と生態系」に着目し、私たちの暮らしから出るゴミが生態系にどのような影響を与えているのかなどを探究しています。北九州市および地球の未来に目を向け、公害・SDGsなどの分野から“今”を考えることを通して「環境を想う眼」を養っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

青空学プロジェクトでは、自身の興味関心のある分野について、深掘りや実践を有する活動ができるため、環境に関することを学びつつ、企画力を高めるなどスキルアップしながら楽しく学ぶことができます。

今年度の活動の内容と成果

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の中、野外での活動が可能か、不透明であったため、前期と後期で活動を分けて考えました。前期は3チームに分かれ、興味関心のある北九州市の環境問題をとりあげ、現状や原因、解決策などを考え、まとめる作業を行いました。①海洋ゴミ問題と生態系の関係、②ゴミ問題と5Rの必要性、③曾根干潟のカブトガニ生息状況と人間の生活、について調べ、PJ内で発表したところ、「人間社会から出るゴミが環境や生態系に与える影響」について全員が関心を持っていたことがわかり、後期ではそれに対する深掘りと実践を行うことにしました。まず藍島にて海洋漂着ゴミを観察・清掃し、大小様々な海洋漂着ゴミ、とりわけプラスチックゴミの多さに圧倒されました。次に曾根干潟にて生態系と海洋漂着ゴミの現状について複数回にわたり観察を行いました。これらの活動から得られた情報を、第三者の方にも知っていただけるよう、学びをまとめた絵本を作成していく予定です。

🔄 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度、特に意欲的なメンバーが集まり、最初は全員の関心分野が異なっていたため、どのような活動をすべきかととても悩みました。しかし、実際に調べ学習などを通していくと全員が一つの問題を違う角度から見ていたことがわかり、環境問題の視点の数の多さを改めて感じました。

今年度はあまり地域に出て行くことが叶いませんでしたが、それでもフィールドワークで一見、生物がたくさんいて美しい島や干潟で、それらを侵食していくかのような海洋漂着ゴミを目の当たりにし、絶対に他人事にはいけない問題であると痛感しました。今後も、環境問題特有の「自分の行動が見えないところで悪影響を与えていること」に対し、警鐘をならし、一緒に解決するためのアクションプランを考え続けていきたいと思っています。



STEP2
PROJECT
15

平和の駅運動プロジェクト

学生から発信する「平和」

- **リーダー**
法学部 法律学科
2年 弓場 理史
- **プロジェクト人数**
6名
- **活動開始時期**
2011年4月～
- **活動頻度**
月に10時間程度、
週に一度、1コマのミーティング
- **連携・受入団体**
長崎市役所
北九州市立西小倉小学校
長崎市立城山小学校
- **主な活動場所**
北九州市
長崎市
- **こんな人におすすめ!**
・平和活動に興味がある人
・企画を一から発案・企画・運営してみたい人
・大学でかけがえのない仲間と出会いたい人
- **今年度の活動実績**
・「ピース動画」の作成、公開
・学内ホワイトハウスにて小倉が長崎原爆の第一投下目標地だったという展示会の実施
・北九州市立西小倉小学校にて平和学習と長崎市に届ける千羽鶴、平和メッセージの作成をしていただいた
・長崎市立城山小学校にて西小倉小学校からの千羽鶴と平和メッセージを届け、小倉祇園太鼓の演奏をした
・長崎市平和公園にて千羽鶴の奉納と小倉祇園太鼓の演奏をした
・長崎大学にて、核兵器廃絶長崎連絡協議会との交流をした
・戦争経験者の方からお話を伺った



平和の駅運動プロジェクトは、戦争の記憶の風化とそれに伴った平和への意識の希薄化を課題としており、若者を中心とした「戦争の記憶風化の防止」「平和の再考」そして「核廃絶」を目標として活動をしている団体です。具体的には、北九州市内の学校での平和学習や、北九州市及び長崎市各地での小倉祇園太鼓演奏など、音楽を通して広く市民と平和を考える場を共有する活動をしています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

平和の駅PJでは、自分たちでやってみたいことができ、社会人の方と接することも多くあるので、「企画力」や「社会マナー」が身に付けられたと思います。また、平和の駅PJで信頼できる仲間にも出会えました!

今年度の活動の内容と成果

今年度は平和の駅運動PJとしてリスタートの一年であり、またこれから大きく飛躍するためのステップアップ期間であったように思います。PJ設立時より担当されていた先生のご退任により、今年度は平和の駅運動の活動意義や今後の方向性などをメンバー全員で改めて考えながら活動を進めていくこととなりました。例えば、例年実施してきた西小倉小学校から長崎市立城山小学校へ折り鶴を届ける活動において、今年度は「なぜ折り鶴を届けるのか?」と折り鶴に込められたメッセージについて改めて小学生と一緒に考えながら鶴を折るなどの工夫を通して、平和学習の内容をよりよいものにしていきました。

また、来年度以降の活動の幅を広げ、北九州の学生による平和のメッセージの発信力をさらに強化していくための取り組みも多く始めました。例えば、これまでの活動の中で繋がりのあった長崎市役所や長崎市立城山小学校、八幡大空襲を伝える団体である平野塾とは、学生との共同企画や交流を通して改めて繋がりを強めることができました。そして新たに、北九州市平和のまちミュージアムや長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の方々、戦争を経験しその記憶を伝える地元市民の方々との交流も持つことができました。

今年度のこれらの成果をもとに、来年度のPJ活動をさらに飛躍させていきたいと思っています。

🔄 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後は、現段階として交流でとどまっている関わり先の方との共同企画を行いたいと思っています。

また、平和学習の内容を見直して質の向上をしつつ、市内学校の平和学習をさせていただく学校を増やして、さらに多くの若者に平和について考えてもらう機会を提供したいと思っています。

また、戦争の記憶を風化させないために、展示会を実施したり、戦争体験者の方と若者が対話をできるような橋渡し役になりたいと思っています。



STEP2
PROJECT
16

北九州市立大学 BBS 会

楽しく温かい輪を繋いで、
子どもたちの非行予防や更生支援を！

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 三浦 千紘
- **プロジェクト人数**
9名
- **活動開始時期**
2014年6月～
*実習の頃から
- **活動頻度**
月に6～8時間程度、
毎週木曜日など
それぞれの履修をもとに学期初めに
定例ミーティングの日程を決定します。
定例ミーティング以外の活動を
別の曜日に行うこともあります。
- **連携・受入団体**
保護観察所
児童養護施設
ファミリーホーム
- **主な活動場所**
大学
保護観察所
提携施設
- **こんな人におすすめ！**
・人に寄り添うボランティアが
したい人、人の役に立ちたい人
・大学で視野を広げたい人
・福祉や教育に興味がある人
- **今年度の活動実績**
・保護観察所での勉強会
・子どもたちの
スポーツイベント開催



BBS (Big Brothers and Sisters) は、非行少年たちへの更生支援や非行予防を全国規模で行う団体です。本プロジェクトはその中の1学域として活動しており、対象者は非行に走った少年少女に限らず、不登校・里子・養護施設の子どもたちも含まれます。主な活動は、支援対象者やその支援についての勉強会、施設見学、子どもたちと実際に交流をするスポーツフェスティバルの開催などがあります。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

BBSでは、支援する少年たちにどんな事情や経緯があり、そしてどんな支援体制があるのかなど、非常に重要な社会の仕組みを学ぶことができます。そのため、私は実際に人の見方や社会の見方が変わって視野が広がりました。

今年度の活動の内容と成果

今年度に行った活動は、勉強会、施設見学、スポーツフェスタの3つです。勉強会では、「依存症と犯罪について」、「更生保護制度について」教えていただきました。BBSの活動にも繋がる知識が得られ、活動への理解がより深まりました。施設見学では今年は「児童養護施設聖小崎ホーム」さんにご協力していただき、施設についての説明やどういったことに気を付けなければいけないかなどを教えてくださいました。実際に子どもたちが生活する場所や生活の一部を見学することができて、子どもたちにより一層寄り添えるようになったと感じています。12月に開催したスポーツフェスティバルでは、聖小崎ホームさんと小規模の児童ホームの「やまだホーム」などの子どもたちとバドミントンや新投げスポーツ「クッパ」をして交流しました。どの子も「楽しかった」と言ってくれるイベントにできたことで、信頼関係の構築と子どもたちのリフレッシュという目的の達成また、人の役に立つという経験をられました。勉強会や施設見学を通して学び、得たことをスポーツフェスタに活かして人の役に立てたことが、今年度の活動成果だと思います。

🔄 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度は他大学のBBSとの交流も盛んになり、3つの活動全てを協力して行うことができました。大学間交流を引き続き行うことができました。大学間交流を引き続き行うことで、北九州市全体で少年たちを支えていくというネットワークを強くできるので、今後も交流を絶やさず協力し合っていきたいと考えています。また、今年度に大学内の他のプロジェクトとの交流の場も設けられたことで、今後コラボ企画を行って、より楽しく、より多方面から少年たちの支援ができそうです。これを機に様々な体験を少年少女たちに届けられるようにしていきたいと思っています。



STEP2
PROJECT
17

421Lab. 英語で遊ぼうプロジェクト

英語を楽しんで学んで、
身近に感じるために

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 江口 千里
- **プロジェクト人数**
7名
- **活動開始時期**
2021年4月～
- **活動頻度**
月に4時間程度、
毎週金曜日など
毎週金曜日の昼休みにミーティング
月に1度保育園にて英語の単語を
教える活動
月に1度保育園にて英語とは
関係なしの活動
(クリスマス会やウォークラリー等)
- **連携・受入団体**
若園保育園
- **主な活動場所**
若園保育所
- **こんな人におすすめ！**
・子どもが好きな人
・英語が好きな人
- **今年度の活動実績**
・若園保育所で英語を使った
学びの時間の実施
・若園保育所の「仲良しの日」に参加
・若園保育所の園内行事に参加



私たちは、園児との交流を通じて幼児教育について深く学ぶ活動を行っています。園児と一緒に遊びながら、身体を動かしながら、英語教育や異文化理解教育をおこなう活動をしています。学生が主体となって色々なイベントの企画（絵本の読み聞かせ、ゲーム、季節の行事を通じた英語学習）を行っています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

「英語で遊ぼう」の活動は、園児の皆さんの反応が良いのでとてもやる気に繋がります。園児の皆さんとお話することに難しいと感じることもありますが、それ以上にみんなかわいく、「先生!!!」って声をかけてくれるのでとても楽しく活動することができます。

今年度の活動の内容と成果

今年度からスタートしたPJではありますが、たくさんの活動を実施することができました。定例の活動としては、月に1度、英語の授業を保育園にて行うことと、若園保育所の「仲良しの日」に参加することです。

英語授業の活動については、季節の英単語や歌を教えたり、逆に園児の皆さんにタンバリンやカスタネットを使った演奏をしてもらったりとても楽しく活動しています。翌月の活動前に、前月教えた英単語の復習をするのですが、覚えてくれている園児もいて活動の意味を感じられます。

「仲良しの日」に関しては、若園保育所で行っている行事にお手伝いとして参加させていただいています。3歳から5歳までの園児が一緒の空間で活動することによって、協調性や主体性を身につけることを目的とした活動です。内容としては、クリスマス会やウォークラリー、散歩など様々で、英語の授業の活動では1対1で話す時間がなかなかないので、仲良しの日にはゆっくりお話することができるので、園児の皆さんと仲良くなれるようにメンバーそれぞれが工夫して会話をしています。そのお陰で、英語授業の活動の際に名前を呼んでくれたりする園児も増えました。来年も今年以上の成果を出せるように、頑張りたいと思います。

🔄 活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今年度はPJとして活動を始めた最初の年で、運営の仕方にまだまだ課題が残る形となりました。活動に何度も参加している人もいれば、なかなか予定が合わず参加できないメンバーもいたため、来年度は皆が同じくらい参加できるような仕組みづくりをしたいと考えています。また、PJメンバーの人数も少ないため、新メンバー勧誘に力を入れたいと考えています。



STEP2
PROJECT
18

421.lab+TAP SDGs Community

SDGsを通じた場づくりを
学生の手で!

- **リーダー**
地域創生学群 地域創生学類
2年 大友 天
- **プロジェクト人数**
11名
- **活動開始時期**
2021年10月~
- **活動頻度**
週に1時間程度、
毎週金曜日など
2021年度は金曜日4限に
ミーティングを行いました
- **連携・受入団体**
株式会社ジーエー・タップ
- **主な活動場所**
北九州市立大学
+TAP北九州 (セントシティ7階)
- **こんな人におすすめ!**
・SDGsに興味がある人
・経営(カフェ)や企画に
関心のある人
・動画収録や編集、配信に
興味がある人
- **今年度の活動実績**
・TFTプロジェクトとのコラボ企画
・コンポスト動画作成
・出張子ども大工の撮影
・SDGsクラブ交流会への参加
・Makuakeさんへのプレゼン
・ロゴ、勧誘ポスター、
SNSアカウント作成



SDGsとは、持続可能な社会を築くために2030年までに達成すべき17個の開発目標のことで、今世界中で様々な取り組みが行われています。本プロジェクトでは、SDGsを推進することを目的として、北九州市内の様々な方々と連携しながらSDGsに関連する活動を行っています。また、421Lab.に所属している他の学生プロジェクトとも協力し、活動紹介やSDGsに関する対談動画などを配信しています。

🗣️ プロジェクトで活動する学生の声

SDGsカフェのオープンを目指して、クラウドファンディングのMakuakeさんに提案に伺うことができました。予算を割り出したり、SDGsに貢献する提供の仕方を模索したりと頭を悩ませましたが、プレゼン資料の作成方法を実践を通して学ぶことができました。簡単ではありませんが、SDGsカフェを実現させたいと思っています。

今年度の活動の内容と成果

2021年度から立ち上がったプロジェクトだったため手探りの連続でしたが、SDGs Community Projectとして大きく2つのことに取り組みました。

1つ目は421Lab.でSDGsの活動に取り組んでいる学生プロジェクトとのコラボや対談です。第1回目はTFT×KitaQ univ.プロジェクトと対談を行い、対談動画を公開しました。

2つ目はフェアトレードのコーヒー豆や商品を使ったSDGsカフェについてです。この活動は後期から始めたため、まだ計画段階ですが、2022年1月には第1回目のイベントを予定しています。Makuakeさんへのプレゼンを経て様々なアドバイスをいただき、さらにブラッシュアップしたSDGsカフェをできるように計画を進めています。

また、今回の活動を通して得られた成果は、「プロジェクトとしての方向性ややりたいことが見えてきたこと」です。来年度はさまざまなプロジェクトとの対談、SDGs関連のイベントでの人や企業の交流の場づくり、SDGsカフェでのフェアトレード商品の提供など個人のやりたい企画を通して、もっと多くの人にSDGsを知ってもらえるような場づくりをしていきたいと思っています。

活動を振り返って 今後の展望や次年度の目標など

今後は、それぞれのメンバーが関心のある分野、やりたいことから活動をもっと広げていければと思います。企業や団体、個人など年齢問わずたくさんの人を巻き込んでコラボして、SDGsの場づくりに取り組んでいきます。また、プロジェクトとしては、やりたいことをただやりたいという空想で終わらせるのではなく、「やりたいを形にするプロジェクト」にしていきたいです。



STEP2
PROJECT
19

オープンキャンパスプロジェクト

北九大生による大学の広報活動



オープンキャンパスは、高校生をはじめとする進学希望者に情報を提供する目的で毎年夏に開催しています。このイベントの企画から当日の運営まで学生が中心となって行うこのプロジェクトは、チームで働く大切さを学ぶとともに、自身のキャリアアップにもつながっています。2021年度は32人の学生が参加して、学生の発想力と行動力でオープンキャンパスを盛り上げました。「この大学に通いたい!」と思ってもらう「きっかけ」づくりとなる大変重要な活動です。

STEP2
PROJECT
20

JOB×Project

企業選定から当日運営まで
全てを北九大生で行う合同セミナー!!



JOB×Projectとして、業界研究を行う学内合同業界研究セミナー「JOB×Lab.2023 (11月~12月水曜日、全4回)、及び学内合同企業研究会「JOB×HUNTER2023」(2月に全3回)の企画・運営を行いました。企業・団体の誘致を行う「営業」の仕事を全員で行い、各種イベントの企画を行う「イベント班」、学生への広報活動を行う「プロモーション班」、会場設営や当日の運営を行う「オペレーション班」の3班で活動しています。企業・団体様と接することで自らの将来を描き成長できるプロジェクトです。

STEP3 Check

2021 地域活動発表会

地域活動発表会は今までの活動の成果を会場で発表し多くの方々に421Lab.のプロジェクトの取り組みについて知っていただく素晴らしい機会です。しかしながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でYouTubeによる動画配信となりました。

【動画公開期間】 2022年3月1日（火）～3月14日（月）



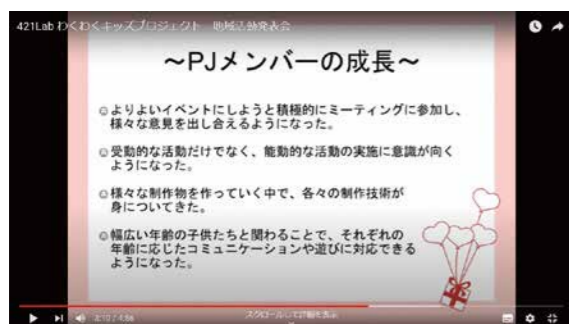
「ブンガクの街・北九州」発信プロジェクト



まち美化魅力向上プロジェクトClear



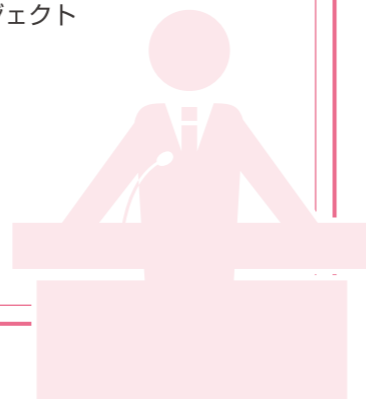
KITAQ『絆』復興応援プロジェクト



わくわくキッズプロジェクト



平和の駅運動プロジェクト



STEP4 Action

振り返り研修

学生個人の成長やプロジェクトの進捗状況を確認するために、定期的に振り返り研修を実施しています。学生運営スタッフが企画から当日の進行まで実施しました。

前期振り返り・後期スタートアップ研修

【日時】 2021年10月2日（土）、10月9日（土）
2日間対面実施

所属するプロジェクトの前期活動を振り返るとともに、ボランティア活動の質を向上させ、やるべきことや課題を明確にし、意欲向上を図る目的で行われました。



本日の
スケジュール



第1部～前期振り返り研修～

- 1 前期スタートアップ研修の振り返り(5分)
- 2 各グループの前期の活動の振り返り(5分)
- 3 達成度を上げるには(5分)

第2部～後期スタートアップ研修～

- 4 各グループの問題点について(10分)
- 5 アンケート回答(5分)

プロジェクトリーダー交流会

【日時】 2021年12月12日（日） 対面実施 参加プロジェクト13 参加人数29人



2021年度
トピックス
1

「環境ESD演習Ⅰ・Ⅱ」 フィールドスタディ(長崎県対馬市)

対馬の実践者に学ぶ、持続可能な社会への挑戦
—『多様な共生』(想像)と『開拓精神』(創造)—

現地での活動内容

■第1回目(2021年7月9日~11日)

7月9日 博多港⇒厳原港(フェリー船中泊)到着

7月10日 フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)

- ◎ツシマヤマメコ米認定田見学(人と自然の共生のための環境保全)
- ◎株式会社対馬地球大学(廃校舎を活用した地域づくり)
- ◎一般社団法人MIT(自然共生型の持続可能な島をつくるデザイン・コーディネーター)

7月11日 フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)

- ◎一般社団法人対馬里山繋ぎ塾(持続可能な社会実現のための価値観を育む教育事業)
- 厳原港⇒博多港 帰着

■第2回目(2021年10月30日・31日)

10月30日 博多港⇒厳原港 到着

フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換・農泊体験)

- ◎農家民宿手づくりの宿(自給自足による持続可能な暮らしと農泊を通じた「場」づくり)

10月31日 厳原港⇒博多港 帰着

▶スケジュール

本プログラムは事前学習・現地実習・事後学習(報告)の3段階で実施しました。

1. 事前学習(2021年4月~2021年7月)
→対馬の概要や課題解決の取り組みについての学習、学生の興味関心や課題意識の意見交換等
2. 現地実習(2021年7月9日~11日[2泊3日]、2021年10月30日・31日[1泊2日])
3. 事後学習(報告)(2021年7月~2022年3月)
→授業「環境ESD入門」で発表
→対馬へフィードバック(企画提案)



福岡から約130km、韓国から約50kmに位置する国境の島・長崎県対馬は、「自立と循環の宝の島」として島の持続可能な発展のために先進的な取り組みを続け、現在はSDGs未来都市に選定されています。今年度の副専攻環境ESDプログラムでは、対馬の多様で美しい自然や伝統食にふれつつその背後にある課題や人と自然の共生の様子に触れるとともに、現在島内で活躍する実践者の方々と訪問現場で交流を行うことで、学生が課題発見・課題解決に向けたチャレンジ精神を育みながら、持続可能な社会づくりに貢献する人材として自己と社会との関わりについて考え、自分の将来を描く機会へと繋げていくことを目的として、島内5か所でのフィールドワーク実習報告と課題解決のための企画提案を行いました。



参加学生のコメント

法学部 3年 曾我 遥香

コロナ禍もあり、今年は国内での演習フィールドワーク先を決めるにあたって、縁あって長崎県対馬市に伺うことができました。地理的には博多港からフェリーで5時間という辺境の場所にあるように感じられる対馬ですが、訪れてみると世界の未来に対する目線をしっかりと持ち、持続可能な社会を実現するにあたって先駆的な役割を担っている人が多いことに驚きました。最近は何事においてもグローバル化・利便性のための発展を追い求める傾向がありますが、日常生活で見落としがちなの「幸せ」の在り方について改めて自分自身に問うきっかけを2度の訪問は与えてくれました。対馬での様々な食文化・歴史・人との繋がりを通して、私自身、より幅広い価値観を持つようになり、将来の生き方を模索するにあたっての選択肢を広げておくことの重要性についても改めて感じる事ができた旅でした。

外国語学部 3年 大庭 早貴

今回の環境ESD演習は、長崎県の対馬でフィールドワークを行いました。対馬で先駆的な活動をされている方々へのインタビューから様々な気づきを得ました。例えば、「当たり前」に目をつけて「価値づけ」できることや、「謙虚で真摯な姿勢が人を巻き込む力になる」などです。各団体が「持続可能な社会」という大きな目的に向かって、それぞれができることに取り組んでいる姿を見て、私も持続可能な社会に取り組む一人になりたいと思うようになりました。演習では、自分たちで問いを見つけて、自分たちなりの答えを見つけていく機会がとても多かったため、たくさん頭を使いましたが、この1年間で「自分で考える力」を養えた実感できています。



地域創生学群 2年 吉盛 唯織

私は北九州市出身なのですが、まだ市外の地域に行った経験がなく、大学在学中に経験しておきたいという思いから環境ESD演習を受講しました。対馬の自然環境の実態や、それらの問題解決のための活動について、実際に五感を使って知ることで、普段の授業以上に印象に残る、とても大切な経験をする事ができました。また、対馬では環境問題とその取り組みについて学ぶだけでなく、人の温かさや対馬で活動している方々の熱意をたくさん感じる事ができました。それと同時に、私個人の『環境』についての認識の狭さも痛感し、真の意味で『環境問題』に向き合う事ができたと思います。この環境ESD演習での経験は、今後の私の考え方や行動に深く影響を与えるものになったと感じています。これから3年生になり、インターンなどの就職活動の準備が始まりまるという時期に、とても良い刺激になりました。この経験を得ることができて、とても感謝しています。

地域創生学群 2年 大友 天

私が対馬のフィールドワークで学んだことのなかで最も驚いたことは「対馬に住んでいる地元の人は対馬にある自然や生き物について、あまり関心をもっていない」ということです。対馬は対馬にしか生息していない希少種や絶滅危惧種がたくさんいて、それはとても珍しいことで当たり前のことではないです。また絶滅危惧種や希少種というのは対馬で絶滅すると世界からその生き物がいなくなってしまうことであるのに、地元の人の「関心がない」というのを私は問題だと感じました。しかしそのような関心のない人もいる中で、取材をさせていただいた方々はそのかけがえない対馬を守るために活動されていました。それぞれ対馬を守るためにアプローチする方法は違いますが、「対馬のために行動する」という思いはみなさん一緒なのだと感じました。私は対馬にフィールドワークに行って、さらに地元である北九州市に自分なりの形で何か行動を起こしたいと思いました。

2021年度 トピックス 2

福岡県立北筑高校×421Lab. 出張SDGs模擬授業

▶スケジュール

2021年7月13日 15:15~16:05

●場所：福岡県立北筑高等学校

2021年7月13日、421Lab.の学生プロジェクトが北筑高校1年生に向けて出張授業を行いました。地域の課題解決に取り組む大学生が、自分たちのプロジェクトの設立背景やその目的、また日頃の活動の様子などを授業形式で伝え、SDGsとの関連性や自分たちにとっての学びや成長などもお話ししました。高校生は、各プロジェクトの発表テーマから関心のあるものを選んで授業を受けました。



参加学生のコメント

国際交流プロジェクトFIVA 文学部 3年 田中 美玖 (北筑高校OG)

「国際交流におけるSDGs」について発表を行いました。SDGsの3つの側面などに当てはめて説明しました。クイズやグループワークをしながら「外国人も住み続けられるまちづくりのために、今できること」について母校の高校生に発表してもらいました。所属する国際交流プロジェクトFIVAでは出たことのない意見を聞くことができ、私たちにとっても貴重な経験となりました。

平和の駅運動プロジェクト 法学部 2年 弓場 理史

私たちは北筑高校の生徒さんに「あなたにとって平和とは」「その平和を実現するためにできることは」ということについて考えてもらう模擬授業をしました。生徒さんはこの問いについてしっかりと考えてくれて、私たちがはっとするような答えを多く出してくれました。この模擬授業はとても貴重な経験であったと思います。今後もプロジェクト活動にて高校生を対象とした平和学習もしていこうと思いました。

421Lab.いぬねこプロジェクト 外国語学部 2年 熊川 絢斗

授業内容を本番前日の夜遅くまで、プロジェクトメンバーとともに何度も話し合いを重ね、不安と緊張の中ではありますが無事に授業を成功させることができました。高校生に対して授業をすることは滅多にない機会だと考えたので今回の出張模擬授業に参加しましたが、とてもいい経験になり、参加してよかったです。



2021年度 トピックス 3

ようこそ北九大へ ～広徳小学校・徳力小学校大学訪問2021～

▶スケジュール

●広徳小学校 2021年12月16日(木)

9:30 小学生入場完了(A-101)

9:35 学生による大学紹介プレゼンテーション

9:50 よさこいサークル「灯炎」による歓迎パフォーマンス動画鑑賞

10:15 班別キャンパスツアー
(体育館・図書館・食堂・ショップ・バーラー・421Lab.)

11:00 班別座談会

11:20 子どもたちからの感想、ノベルティ贈呈、終わりの挨拶

●徳力小学校 2022年2月15日(火)

※「出張キャンパス」形式で徳力小学校にて実施
(よさこいサークル「灯炎」による歓迎パフォーマンス動画は事前に鑑賞)

9:40 挨拶、自己紹介

9:45 学生による大学紹介プレゼンテーション

9:55 動画でキャンパスツアー体験

10:10 おしえて！コーナー(クラス別質問会)

10:25 子どもたちからの感想、ノベルティ贈呈、
終わりの挨拶



※撮影時のみマスクを外しています。



地域の小学生に「大学ってどんなところ？」を知ってもらい、将来を考えるきっかけにもらうため、421Lab.学生運営スタッフ(大学地域支援グループ)による小学生の大学訪問企画を実施しました。12月16日には北九州市立広徳小学校6年生の皆さんが本学北方キャンパスを、年明けの2月15日には「出張キャンパス」形式で学生スタッフが北九州市立徳力小学校を訪れ、6年生の皆さんと一緒に大学の役割や各施設、大学生の日常などについて学びました。学生との交流の中では大学の授業や大学生活に関する質問も多くあがり、小学生の皆さんは「大学に行きたくなった」と将来の夢を膨らませ、未来の自分を想像してくれていたようです。本企画を通して、学生たちは大学と地域の未来をつなぐ役割を果たすことができました。

参加学生のコメント

地域創生学群 2年 垂水 綾香

昨年はコロナの影響によりオンライン実施となった大学訪問を、今年は対面で行うことができました。準備段階では小学生と上手く話せるか、スムーズに進められるかなど不安でしたが、当日小学生の皆さんは発表を静かに聞いてくれて、キャンパスツアーや座談会では大学の授業や部活・サークル、大学生の日常についてもお話することができ、最後まで楽しみながら終えることができました。今回の経験を通して改めてひとつの企画を準備、実践、そして振り返りまで仲間とともに行える楽しさを感じました。今回初めてリーダーを務めさせていただき反省点もありましたが、メンバーの協力に支えられ成功することができました。小学生の皆さんにとって、大学訪問が将来のことを考えるきっかけとなってくれたら嬉しいです。

経済学部 2年 下原 由衣

この企画を行うにあたり、どうしたら小学生が楽しんでくれるかを一番考えて取り組みました。私は主にキャンパスツアーの企画を担当しましたが、コロナ禍で色々な制限がある中、最大限に楽しんでもらうために試行錯誤しました。本番は雨天で、急遽の変更もありましたが、それぞれ柔軟に対応できたと思います。小学生が積極的に大学に興味を持ってくれる姿がとても印象に残りました。活動を終え、改善点も発見できたので、この経験を生かして次の活動に取り組みたいです。

私が活躍できる場所、を見つけました

421Lab.では、1日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

ヤングサンタ

北九州市のこどもたちに夢と希望を与える「ヤングサンタ」というボランティアに参加しました。北九州青年経営者会議の皆さんと「ヤングサンタ」として病院、児童福祉施設、一般家庭を周りまわりました。純粋に喜んでくれる子どもたちの笑顔やそれを見て喜んでくださる保護者さんを見ていて胸が温かくなりました。夢と希望を次の世代に引き継ぐ1人になれて本当によかったです。



外国語学部1年 大山 莉奈

夏休み子ども講座

何か新しいことに挑戦したいと思い、藤松市民センターで実施されている「夏休み子ども講座」に学生ボランティアとして参加しました。小学生に勉強を教えた経験がほとんどなかったので、最初は不安だったのですが、時間の経過とともに少しずつコツを掴むことができました。活動を通して「教える」ことの難しさや楽しさを学ぶことができましたので良かったです。



外国語学部2年 林 雅子

エコプロジェクト

北九州市の「エコライフステージ2021」イベントの中のエコプロジェクトに参加しました。食品ロスについて楽しく学べるオンラインストーリーゲームを作成しました。オンラインゲームの作成という初めての挑戦でしたが、チームの皆で協力し完成させることができました。皆で一つのものを作り上げる良い経験になりました。



外国語学部3年 大庭 早貴

小倉城竹あかり 竹の洗浄

小倉北区にある旧小学校で、小倉城竹あかりの準備のボランティアをさせていただきました。活動内容は竹を運んで、水で流して綺麗にするといい、シンプルかつかなり体力を使うものですが、活動を通して地域の方々が「どのようなことをどういった信念を持ってしているのか」を実感でき、有意義な時間を過ごすことができました。



外国語学部1年 竹谷 隆

先輩へのインタビュー

先輩インタビュー 第5弾

「これまでの地域活動を振り返ってどんな影響を受けて、自分の将来に繋げているのか」先輩へインタビューしました



地域創生学群 3年
平和の駅運動プロジェクト
田中 小晴さん

これまで「平和の駅プロジェクト」では、自分たちが設定した「ピースウィーク」という期間に行ういくつかのイベントと、小学生に向けた平和授業を行ってきました。2年生の時にはコロナウイルスの影響でイベントを中止せざるを得ない状況に陥りましたが、その中で何ができるかをメンバー全員で考え、協力者100名と共に平和について考えながらピース動画を作成し、公開しました。3年生になってからはコロナウイルスも落ち着いてきたので、例年行っていたイベントを徐々に再開し、西小倉小学校の児童の皆さんと平和について考えながら折った鶴とメッセージカードを爆心地に近い長崎県の城山小学校に届けるという平和学習をさせていただきました。その時に、長崎の大学生が立ち上げた平和のための学生団体の方とお話しさせていただきました。

このような活動をしていく中で、未来の日本を担う存在に影響を与えられているのかなと思う場面が多くありました。そして、それが今の私にとって一番楽しいことでもあるため、将来は自分が伝えることで誰かに影響を与えられたり、誰かの考えが変わる瞬間を生み出せたりできたらいいなと思っています。



法学部 3年
地域クリーンアッププロジェクト
伊礼門 叶さん

これまでクリーンアッププロジェクトの主な活動として、定例清掃を行ってきました。メンバーがピブスを着て北九大周辺のゴミ拾いをするというものです。また、クリスマスにサンタの衣装をしてゴミ拾いをしながら、すれ違った人にお菓子を配る活動を今年から始めました。楽しくゴミ拾いをするをモットーに企画しています。

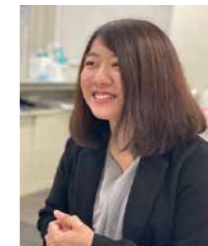
クリーンアッププロジェクトの活動を通して色々な人と関わることで、人との接し方や話し方を意識するようになりました。それは、活動の際に幅広い交流を行っていかなくて、自分の考え方や価値観は人からの教えによって形成されていることに気づいたからです。他人から与えられて今の自分がいるからこそ、自分が持っている価値観も人に与えることによって誰かの考え方を考えるきっかけになるかもしれないと思っています。色々な人との関わりのなかで学んだことをプロジェクト活動でアウトプットできているというのが大きな学びです。



外国語学部 3年
TFT×KitaQ univ. プロジェクト
川品 日向子さん

これまで「TFT×KitaQ univ. プロジェクト」の活動を通して、1・2年次では広報PRや他大学間での交流会の開催を行い、リーダーになってからは、大学生協と協力して行っている「TFT (TABLE FOR TWO) フェア」の準備をしてきました。大学生活との両立など大変な中、プロジェクトリーダーになってからはフェアを毎月できるように取り組みました。毎月続けていく中で、11月末までに学食で販売しているTFTメニューの売り上げが1981食を達成したり、生協の方々や学生から良い感想を聞いたり、反響をいただけるようになりました。私達の活動がきっかけで北九大生がTFTに関わってくれたことを実感しとても嬉しかったです。

国際貢献をしてみたいという思いからこの活動を始め、継続することの大切さ、自分たちから情報を発信し、周りを巻き込んでいくことの大切さを学ぶことができました。これから就職しても、国際貢献やSDGsなど環境のことをすべて自分ごととして捉え、一つ一つ楽しみながら生活の中で自分のできることをしていきたいと考えています。



文学部 3年
「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
大熊 日菜子さん

これまで、「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトでは、地域を文学で盛り上げるということをテーマに活動してきました。本に触れてもらう機会をより多くしようということで、商店街の中の一店舗で古本市を行ったり、京町銀天街にある北九州文学サロンの展示スペースの壁をお借りして、「お菓子和本、文豪」というテーマで、文豪の好きだったお菓子や文豪の作品を紹介し、その時に地域の方と一緒に作品を作ったりしています。活動を行う上で、地域の方と関わるからこそ想像以上のアイデアが出たり、若い世代が参加してくれたりなど印象的な出来事もありました。自分たちが提供するだけでなく、地域の方と一緒に何かを作り上げる経験は、対象世代に沿った興味のある企画やアピールの手段を考える機会となり、自分たちだけで完結しない大切さを学びました。プロジェクトで学んだ人との接し方などの技術的なことは、これからの仕事や将来に生かせると思いますし、文学を通して学んだ教養は人生において、よい知見になると思います。

私たちが取材しました!

今回の取材の中で先輩方から、一歩踏み出す事で誰かに影響を与えられる存在に成り得るという事を学ばせて頂きました。私達も、プロジェクト活動を通して様々な事を経験し、些細な事で周囲に良い影響を与えられる存在になりたいと感じました。

取材者	経済学部 2年	濱田ももか
	経済学部 1年	永淵はるな
	文学部 1年	正行 伽音
	文学部 1年	馬場明香里

REGION X STUDENTS

地域×学生を掛け合わせたら何が生まれるか。今回は421Lab.わくわくキッズプロジェクトについて取り上げ、受け入れ先の大英産業株式会社
の北野さん、鮎川さんに活動に対する想いを語っていただきました。

【対談日】2022年2月5日(土曜日)

【場所】大英産業株式会社 本社 【時間】1時間半程度

北野さん→北 鮎川さん→鮎 濱田→濱 馬場→馬

質問1 プロジェクト自体を立ち上げた経緯

鮎 立ち上げた経緯というところでお話します。大英産業の広報担当という立ち位置で、私が大英工務店という現場に行ったときに2つの驚きがありました。1つは「大工さんって、すごい」って思ったこと。もう1つは、長い木材とか、住宅としては使わないから、家の前の大きなゴミ箱があり、それに長い木材が入らないから「切って捨てる」って言われたことです。余った木材って、「もったいない!」。そんなところから、「子ども大工」という企画を思いついて、北野に相談したという流れです。

北 ひらめいた彼はめちゃくちゃ考え、「どう思う?」って企画を持って来ました(笑)

鮎 そんな話をしているときに、北九州市のSDGs推進室の方とお話する機会がありました。それで紹介されたのが桑の実工房です。桑の実工房の方に、北九州市の方と、弊社でこういうのをやりたいんですっていうのを言ったら、「北九州市のSDGsプロジェクトチームとしてやったらいいんじゃないですか?」って話になったんです。

馬 現場での経験がもとになって実現したんですね!

鮎 高齢の大工さんって、技術はあるけど体力がどんどん落ちていきます。すると、現場では残念ながら通用しにくくなります。そこでセカンドキャリア作れないかなと思ったんです。DIYという業界に入ったら超一流になるわけです。だから、キャリアを作れたらいいなって。「学生×シニア大工さん×障がい者さんの木工」というスキルを掛け合わせたキット商品ができなかなって感じます。

濱 すごいです! どんどん派生、展開していったんですね!

鮎 ゼロから考えたんじゃなくて、知恵をもらいながら、紹介が繋がっていき、協力していただいって感じですね。

北 北九州市に公認をいただいているのは強いですね。そこから注目してもらえようになり、全然知らないところからも連絡をもらえるようになったりしています。「こういうのを大英産業がやり始めました」っていうのを発信して下さるおかげです。こういうのが大英産業ならできますよっていうのもあります。



質問2 やってみて良かったこと

北 シンプルにプロジェクト自体に共感を得られるようになりました。SDGsってまだまだわかりにくくて、ぼやっとしています。その思いがカタチになり、具現化したことによって、めっちゃいいですねって言われます。「みらいキッズプロジェクト」ができたことによって、大英産業の想いを話しやすくなり、それに共感してくれる人がこんなにたくさんいるんだということに気づけたことが一番、良かったことかなと思います。

鮎 大英工務店でいうと「仕事が増えてしまった」ということになりましたが、ただお金をもらうという仕事だけでなく、グループ会社としてちゃんと必要とされるというのを感じれるから、一緒に取り組んで良かったなって思います。これをやり



始めて、大工以外の仕事とかが増えました。福祉事業所とかかわる機会が増え、そうしたところから、「こういう施工とかできますか」とか、別の仕事の相談も受けたりして、広がりがすごくなって思います。

北 北九州市が情報発信して下さるので、連絡をいただくこともあります。取引のない会社さんからも「SDGsという繋がり」を通して、話をしても思いも一緒だったりするから、そういう出会いが増えたことが良かったことです。

質問3 これからの展望について

北 現時点では、幼稚園児に「出張大工」するって予定だったけど、(小倉駅前にある)セントシティとかでイベントしたりとかもあるので、「みらいキッズプロジェクト」の中で広がりができたらいいですね。

濱 幼稚園だけじゃなく、地域の子もたちと関わっていきたくって感じですか?

北 そうです。たとえば、教材化とか。

鮎 教材はつくりたいですね。「大工さんがいないと作れないもの」はなんか違うかなと思っています。学生さんが使えるとか、学校で先生が教えれば使えるとか、そうしたこともやっていきたいと思っています。

みらいキッズ
プロジェクト



質問4 企業さんからみたプロジェクト

北 最初に来てくれた時に、「活動できてよかった」と何人か学生さんが言ってくれました。楽しんでくれていることが一番うれしいかもしれません。皆がフットワーク軽く、勝手に動いてやってくれるので助かっています(笑)

鮎 いい意味で勝手にやってくれるので、任せられます。

北 やっぱり子どもたちに慣れてますね。自分たちでうまくいくように考えて、良くなかったところは修正するとか、自分たちの中で成長してくれているなと感じます。本当に「がっつり戦力」って感じます。

馬 嬉しいですね。

鮎 これからっていうお話でいくなら、もっと提案とかしてくれたいなと思います。「こういうキットを作りたいんですけど、作れますか」とか。そういう提案をもらったら、こちらでも考えてみるので、どんどん仕掛けてほしいです。

濱 プロジェクトでも、「依頼されてやるみたいにならなくていいから、能動的に自分たちからもいきたいね」って言ってくれた学生がいました。それぞれの提携先を絡めるっていうのも面白いかもしれないですね。

鮎 一歩踏み込んでほしいですね。その一歩で未来が全然違うの。

北 こういうのって、アイデアでポンと出てきたもののほうが良かったりします。「実現する・しない」は置いておいて、派生を楽しんでいけたらいいですね。



質問5 これから挑戦したいこと

北 可能性、無限にありますね。端材をなくすとすると、相当な活動をやっていけないといけません。端材はここ数年やるでしょうね。弊社が新築戸建てを建てる限り、地域に対する活動ってところでいくと、端材は起点になるかもしれません。今後の広がりたいな話になりますが、個人的には、みらいキッズに参加してくれた学生さんのキャリア支援をしたいです。自己分析とか応援したりするなかで、「入りたい企業に入ることができました!」っていうのは、地域のためにはなると思うんです。そういう広がりもできたらいいなと。

鮎 コロナで人間関係作るの大変だったんですけど、こうした子どもを通じた活動を通じて、人間関係を作ることができましたと言ってくれる学生が増えたらうれしいです。

北 そういったのしい活動にもしたいですね。



対談者 濱田ももか (経済学部2年) 馬場 優佳 (法学部3年) 同席者 山下 陽菜 (地域創生学群2年)

「地域につながる自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年4月に北九州市立大学に誕生した『421Lab. (地域共生教育センター)』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し、学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。こういった活動に取り組むことで、学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までにはなかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab.にはセンターの運営を支えている「学生運営スタッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートする

ことで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみよう」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第1歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、421Lab.広報誌「Lab.Times+」の制作、イベントでの出展PRなどを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。



「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成（学生への教育効果）などの観点から以下の3つのタイプに分けて、学生への周知や活

動の広報などを行っています。また、これらの地域と連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

プロジェクト型

地域社会への貢献を目的とした長期的なプロジェクトでありチームを組んだ複数の学生が地域団体と協力して活動を行う。地域での活動を通じ学生自身も学びと成長を得られるよう、センターが教育的な指導・サポートを行う。

- 421Lab.学生運営スタッフ
- 防犯・防災プロジェクト(MATE's)
- 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 子ども食堂応援プロジェクト
- 「ブンガクの街・北九州」発信プロジェクト
- 国際交流プロジェクト FIVA
- まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 平和の駅運動プロジェクト
- 421Lab.英語で遊ぼうプロジェクト
- KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 421Lab.わくわくキッズプロジェクト
- 『食』から学ぼうプロジェクト
- 421Lab.いぬねこプロジェクト
- TFT×KitaQ Univ.プロジェクト
- 地域クリーンアッププロジェクト
- 青空学プロジェクト
- 北九州市立大学BBS会
- 421Lab.+TAP SDGS s Community PJ

企画連携型地域活動

地域の様々な主体（行政・企業・NPO等）とともに、特定のテーマに基づく企画を立て、その実現を目指して活動する。学生運営スタッフとの連携が多く種に年内での活動となる。

- 421Lab.運営スタッフ大学支援班 ヤマト運輸

短期型地域活動

1日～数日単位で行われる地域貢献（ボランティア）活動。地域からの要請を受けたセンターがメーリングリストや学内ポスターなどを通じて学生に情報を提供するとともに活動実施日まで、受け入れ先との調整を行う。

- 短期型地域活動の一覧は、P44参照

地域共生教育センターの歩み

- 2010.4.1 地域共生教育センター設立
- 2010.4.21 地域共生教育センター開所式
- 2010.9 広報誌「FUTURE」創刊
- 2010.9 第二回北九州学生プレゼン大会で「会頭賞」(最高賞)を受賞
- 2011.3.11 東日本大震災が発生
- 2011.4.21 東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2012.3 登録学生数が1000名を達成
- 2012.10.10 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2013.2 地域貢献活動部門賞を受賞
- 2013.7.11 防犯防災ボランティアプロジェクト
- 2013.7.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.3.23 東日本大震災関連プロジェクト「福岡県防災賞(知事表彰)」受賞
- 2014.7.11 防犯防災プロジェクト
- 2014.7.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.1.23 第三回地域活動発表会(大学教育再生加速プログラムフォーラム)
- 2016.2.10 防犯防災プロジェクト
- 2016.2.10 福岡県小倉南警察署長より感謝状受賞
- 2016.4.1 緊急時災害支援チーム発足
- 2016.4.14 熊本地震が発生
- 2016.5.2～5 熊本地震災害支援第二次派遣
- 2016.5.28～6.26 熊本地震災害支援第一次派遣(計五回実施)
- 2016.7.14 熊本地震派遣学生報告会
- 2016.10.1 防犯防災プロジェクト
- 2016.10.21 北九州市長より安全安心に関する活動団体表彰
- 2016.10.8～10 平成28年度公立大学全国学生大会(「LINK+0000」運営)
- 2016.11.27 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
- 2017.2.14 第四回地域活動発表会(大学教育再生加速プログラムフォーラム)
- 2017.7.5 九州北部豪雨が発生
- 2017.7.15～17 九州北部豪雨支援第二次派遣
- 2017.8.5～8 九州北部豪雨支援第一次派遣
- 2017.11 「平和の駅運動」プロジェクト
- 2018.3 緊急時災害支援チーム
- 2018.12.25 「福岡県防災賞(知事表彰)」受賞
- 2020.1.16 ふくおか共助社会づくり表彰(福岡県)地域貢献活動部門賞を受賞
- 2020.3.10 「食」から学ぼうプロジェクト
- 2020.3.10 農林水産省食育活動表彰
- 2020.7.5 防犯防災プロジェクトMATE's
- 2020.10.27 北九州市青少年ボランティア表彰(優秀賞)
- 2020.10.27 北九州市子ども家庭局青少年課より宮城県南三陸町長より
- 2021.1.23 東日本大震災関連プロジェクト
- 2021.1.23 東日本大震災災害支援への感謝状
- 2021.1.23 宮城県南三陸町長より
- 2021.2.11 子ども食堂応援プロジェクト
- 2021.2.11 SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)
- 2021.3.1 公益財団法人修養団(SYD)より
- 2021.7.30 平和の駅運動プロジェクト
- 2021.7.30 SDGs北九州未来都市ウィット(SDGs)北九州市、北九州ESD協議会より
- 2021.12.23 防犯防災プロジェクトMATE's
- 2021.12.23 二七電話詐欺の被害防止活動(のほり旗作成)に対する感謝状
- 2021.12.23 小倉南警察署より

地域につながる小さな一歩

短期型の地域活動

イベントの当日スタッフやスポーツ大会ボランティアなど、短期の活動を紹介し、多くの学生が地域につながる第一歩を進めました。
2021年度は14の活動に48名が参加しています。

活動名(内容)	主催者	参加人数
「夏休み子ども講座」(夏休みの宿題を教える)	北九州市立藤松市民センター	2
小倉城竹あかり竹の洗浄	青少年ボランティアステーション	4
地球列車みらい号スタッフ	一般社団法人ビープラス・Upple	1
にしき学習スペース「かもめくらぶ」学生ボランティア	錦町市民センター	1
ECOプロジェクトボランティアスタッフ募集	エコライフステージ	2
2021世界体操・新体操選手権北九州大会ボランティア募集	福岡県スポーツ局スポーツ企画課	23
世界水泳福岡2022大会ボランティア	世界水泳ボランティア事務局	2
ヤングサンタボランティア	北九州青年経営者会議	4
大学生協～新入生未来リサーチ講座	北九州市立大学生協同組合	2
第29回北九州市子ども会駅伝競走大会	青少年ボランティアステーション	1
子どもプログラムボランティアリーダー	北九州YMCA	2
アミュプラザ小倉のおすすめメニュープレゼン動画作成ボランティア	株式会社JR小倉シティ	1
外国の子どもたちに日本語を教えてくれる学生ボランティア	公益財団法人北九州国際交流協会	1
ボランティアをテーマとしたオンライン交流会	公益財団法人日中友好会館	2
合計		48

2021年度地域共生教育センター活動記録

月	会議				研修	広報				
	地域共生教育センター会議	地域共生教育センター運営部会	事務局会議	学生運営スタッフ会議		運営スタッフ研修	Twitter更新回数	Lab. Times+	活動メール配信	出前授業
4月			第1回4/6 第2回4/13 第3回4/27	第1回4/5(リモート) 第2回4/20 第3回4/27		4回		4/6 4/28		
5月			第4回5/11 第5回5/18	第4回5/11		13回		5/6 5/17		
6月		第1回 6/29	第6回6/1 第7回6/15 第8回6/29	第5回6/15	6/21～7/2 (スタートアップ研修)	18回		6/7		
7月	第1回 7/5 (メール) 第2回 7/14 (チームス)		第9回7/6 第10回7/13 第11回7/20 第12回7/27	第6回7/6 第7回7/20	7/15～7/20 (プロジェクトリーダー研修)	16回		7/1 7/15	7/13 北筑高校	
8月			第13回8/25		8/11～8/16 (マナー講座)	3回				
9月	第3回 9/15 (チームス)	第2回 9/7 (チームス) 第3回 9/13～14 (メール)	第14回9/28			2回		9/7		9/6 大阪商業大学
10月		第4回 10/5	第15回10/19 第16回10/26	第8回10/20	10/20 10/2 10/23 10/9 (運動会)(前期振り返り 後期スタートアップ研修)	5回				
11月		第5回 11/2 第6回 11/16 (メール会議)	第17回11/9 第18回11/16 第19回11/30			11回				
12月	第4回 12/22	第7回 12/7 第8回 12/15 (メール)	第20回12/14 第21回12/21	第9回12/1 第10回12/15	12/12 (プロジェクトリーダー交流会)	8回	Vol.9 Vol.10			
1月		第9回 1/11	第22回1/18 第23回1/25	第11回1/19						
2月	第5回 2/16	第10回 2/15	第24回2/8	第12回2/16						
3月	第6回 3/23	第11回 3/1								